



# 山行報告 2022



北海道函館 駒ヶ岳

2022年1月～12月

東京朝霧山岳会

## 山行報告 2022 年 総 覧

1	2022-01-02	栃木 大平山域 晃石山	伊藤
2	2022-01-09	上州 赤城 黒檜山 駒ヶ岳	黒澤 他 1 名
3	2022-01-9,10	房総半島 郡界尾根 ( 鋸山～安房高山 )	山口
4	2022-01-10	中央線沿線 寺下峠～立野峠	伊藤
5	2022-01-12	三浦半島 鎌倉常磐山	植田
6	2022-01-15	奥多摩 御岳～青梅 縦歩	黒澤
7	2022-01-18	三浦半島 鎌倉東山 祇園山	植田
8	2022-01-22	奥武蔵 芦ヶ久保～武蔵横手	黒澤
9	2022-01-29	奥武蔵 二子山～伊豆ヶ岳～天覧山	山口
10	2022-01-30	会津高原 高杖スキー場	伊藤、他 1 名
11	2022-02-05	丹沢 北尾根～長尾尾根～政次郎尾根	黒澤
12	2022-02-06	栃木 唐沢山	伊藤
13	2022-02-06	飯土山 舞子スキー場	伊藤、他 2 名
14	2022-02-12	谷川岳 天神尾根	黒澤、他 1 名
15	2022-02-19	飯能アルプス 武蔵横手～飯能	黒澤
16	2022-02-20	上越国際スキー場	井上、伊藤、他 4 名
17	2022-02-23	関東平野 筑波山周回	山口
18	2022-02-26	西丹沢 同角山稜	黒澤、他 1 名
19	2022-02-26	丹沢 表尾根 (三ノ塔～塔ヶ岳)	塚田
20	2022-02-27	箱根 駒ヶ岳 (敗退)	山口
21	2022-03-12	丹沢 焼山～大倉	黒澤
22	2022-03-20	箱根 金時山	山口、他 1 名
23	2022-03-27	栃木 大平山域 晃石山	伊藤
24	2022-04-17	中央線 沿線 寺下峠 ～矢平山	伊藤
25	2022-04-19	讃岐山脈 石鎚山	山口、他 1 名
26	2022-04-16	六甲山系 六甲山～魚屋道	山口
27	2022-04-14	奈良 金剛山地 大和葛城山	山口
28	2022-04-12	紀伊山地 龍神岳	山口
29	2022-04-08	美濃三河高原 茶白山	山口
30	2022-04-22	八ヶ岳連峰 赤岳～阿弥陀岳	塚田
31	2022-04-23	高尾 ～ 津久井湖	黒澤
32	2022-04-28	天覧山～日和田山	植田
33	2022-04-30	神戸 六甲山	黒澤
34	2022-04-30	秋田 阿仁スキー場	伊藤
35	2022-05-01	福島 いわき 鬼ヶ城山	伊藤
36	2022-05-03	秋田県大館市 鳳凰山	伊藤、他 6 名
37	2022-05-03	上越 阿能川岳～小出俣山	山口、他 3 名
38	2022-05-03	近畿 伊吹山	黒澤
39	2022-05-04	足尾 仁田元沢～(庚申山)～石塔尾根	木戸、他 1 名
40	2022-05-04	外秩父 堂平山	吉田、他 1 名
41	2022-05-05	秋田 八幡平スキー場	伊藤
42	2022-05-08	栃木 唐沢山	伊藤
43	2022-05-21	奥多摩 大塚山～日の出山～金毘羅尾根～武蔵五日市	黒澤、他 1 名
44	2022-05-22	白神山地 白神岳	山口

45	2022-05-23	甲斐駒ヶ岳 黒戸尾根	塚田
46	2022-05-24	佐渡ヶ島 金北山	山口
47	2022-05-28	秩父 二子山	吉田、黒澤、他 2 名
48	2022-05-29	加賀白山 越前三ノ峰～別山	山口
49	2022-05-30	京都府 皆子山	山口
50	2022-06-01	兵庫県 氷ノ山	山口
51	2022-06-02	岡山県 後山	山口
52	2022-06-03	蒜山三座	山口
53	2022-06-04	八ヶ岳 赤岳 周回	黒澤、他 1 名
54	2022-06-07	山口県 寂地山	山口
55	2022-06-10	阿波 讃岐山地 竜王山	山口
56	2022-06-11	丹沢 水無川 源次郎沢	吉田、黒澤、他 1 名
57	2022-06-18	上伊那山地 傘山	山口
58	2022-06-18	奥秩父 甲武信ヶ岳	黒澤、他 1 名
59	2022-06-19	中央アルプス 烏帽子岳～池ノ平	山口
60	2022-06-25	丹沢 同角山稜～同角	黒澤、梶、他 1 名
61	2022-06-27	北海道 積丹半島 積丹岳	吉田、山口
62	2022-06-28	北海道 増毛山地 暑寒別岳	山口
63	2022-07-03	北海道 日高山脈 アポイ岳	山口
64	2022-07-04	北海道 夕張山地 夕張岳	山口
65	2022-07-06	北海道 夕張山地 芦別岳	山口
66	2022-07-07	北海道 十勝岳連峰 美瑛岳～十勝岳	山口
67	2022-07-09	北海道 島牧村 狩場山	吉田、山口
68	2022-07-10	北海道 駒ヶ岳～剣ヶ峰	吉田、山口
69	2022-08-03	富士山 (吉田ルート)	塚田
70	2022-08-05	岩手県 岩手山	伊藤
71	2022-09-30	奥高尾縦走	塚田
72	2022-10-01	利根川水系 湯檜曾川 東黒沢	木戸、他 1 名
73	2022-10-02	上越国境 大源太山	井上、他 1 名
74	2022-11-05	奥武蔵 伊豆ヶ岳	梶、植田、伊藤
75	2022-11-12	奥多摩 タワ尾根	黒澤、他 1 名
76	2022-11-15,16	福島県 霊山(りょうぜん)	山口
77	2022-11-27	秋田県 太平山	伊藤
74	2022-12-03	奥多摩 烏屋戸(とやど)尾根 (途中まで)	木戸、塚田
75	2022-12-10	鎌倉アルプス	杉山、植田
76	2022-12-10	栃木県 石裂山(おざくさん)	井上、他 1 名
77	2022-12-15	道志山塊	山口
78	2022-12-29～31	南ア 仙丈ヶ岳 (敗退)	木戸、山口、吉田

## 2022年（令和4年） 1月

2022-01-02

### 栃木 大平山域 晃石山

途中駅から30分弱程歩き電車を乗り換えるが30分待ち、実質9時半頃から歩きだす。いつもなれた道であるが、3ヶ月歩いてないので疲れる。大平神社は初詣のため早足で登山道へと進む、ハイカーも少なめというか普通。晃石山からは日光連山がきれいに遠望される。東武大平下駅までいつもどおり歩く～午後から新年早々仕事  
(伊藤 守)



2022-01-09

### 上州 赤城 黒檜山・駒ヶ岳

明けましておめでとうございます。今年の初登りは赤城山塊。今回は公共交通機関で、前橋から直通バス（行き1500円）でした。帰りは15時15分発のバスで富士見温泉で乗換え（1810円1200円+610円）でした。チケットが3200円で特典付き？のようでしたので、直通でない場合はそちらの方がお得です。始発バスは満員で安全のため増発のバスを出してくれるということで、増発に乗車。歩きだしは、氷った大沼を赤城神社方面に進み黒檜登山口から。無雪期は石段をずっと登るイメージでしたが、今回は雪道のため意外に歩きやすくてまに一本たてて大沼や富士山を眺めました。黒檜山頂に着くと、多くの登山者が休憩中。赤城山の標識は手持ち出来て記念写真を撮影。アヒルちゃんやこびと達が出迎えてくれました（作っていただいた方ありがとうございます。感謝）。トラバース気味に駒ヶ岳に進んで、神社で今年一年間の登山の無事をお祈りして下山に。途中ビジターセンターへ

の分岐があったが、階段が滑りそうで怖かったので、そのまま破線路を進んで鳥居峠まで歩いた。バス停までは車道を5分位歩いたかな？でもこちらの方が、雰囲気があって正解？  
(黒澤、他1名)

2022-01-09

### 房総半島 郡界尾根（鋸山～安房高山）

ここに一冊の本がある。「房総の山」千葉山岳連盟 昭和48年10月発行（持主 川内盛雄）この年の千葉国体に向けて千葉岳連がまとめた本で、この中に太平洋側の行川アイランド近くの「おせんころがし」から東京湾の浜金谷まで約50km、上総と安房の郡界尾根を4日間で縦走する資料があったのでいつかは歩いてみたいと思っていた。調べてみると25000図には清澄山、元清澄山、鋸山しか名前が付いてない。後は所々標高しか記入されておらず郡境界を歩くしかない。ピークは調べてみるとほとんど名前が付いている。過去二回太平洋側から清澄山から元清澄山～鴨川道路まで歩いているので残り区間を今回縦走した。

1/9: 東京からJR浜金谷駅に降りるが無人駅で駅前に店が無いのにもびっくり。標識に沿って鋸山を目指す家族連れとペアが多い。



登山道に入ると地べたに車輪の跡がある。昔は女性が一本80kgを三本、荷車で降ろしたそう。急な登りになり石の採掘跡はどこも古代遺跡みたいだ。急な階段を上ると展望台に着く。左から保田の海岸、伊豆大島、天城連峰、富士山、浜金谷港と絶景である。鋸山は展望がない。ここからは尾根上を林道口まで歩いて、その後いよいよ道なきルートになるがペナントも、ロープもふん

だにあるので、迷ってもよく見れば答えは出る。しかし切り立った尾根、細い岩稜は危険である。小鋸山を越え白狐峠に降りたがここは昔、石の採掘場だったがグランドキャニオンみたいだ。まだ長い稜線が続きスイセンピークにはスイセンが全くなかった。ようやく嵯峨山に着く。ここからはなだらかな尾根を降り雪の残る林道に出る。見かける家屋はほとんど無人だ。保田見から内台の尾根取り付きがわからず林道を歩き志駒川にぶつかる。左折して長狭林道に入るががけ崩れが激しい。登りになり小沢が遠ざかるので降りて給水する。(上部には人家が無いとみて)日没時間が近くなったので林道横の広いスペースにテントを張った。ヤママップがどうしても繋がらなくなった。夜は鹿がうるさかった。

1/10：暗いうちに出て現在地も分からず林道を2ピッチ歩いたらヤママップが繋がって現在地がわかって木之根峠であった。急な登りから痩せた尾根と切り立った稜線、根こそぎの倒木を越え2ピッチで林道に出て三郡山～安房高山に着く。道は富津方面と右側にもあるはずなのにペナントがない。かまわず急斜面を降りたら吹付コンクリートの大斜面上部で地上20m位ある。降りられない。ここから大トラバースで結局、登山口迄戻り林道を歩くことになる。一時間歩いて分岐を右折して又、左の尾根から登山道に入る。後3時間で鴨川道路まで行けるか？ペナントも有ったりなかったりで細く急な尾根が続く。ヤママップも入れ放しなので充電しながら歩く。ようやく遠方の見覚えのある「ようこそ鴨川へ」の看板が見えてきた。ずっと細い尾根が続くしペナントも豊富で迷うことはない。日没まで着くか気になり急ぎ足になる。車の音が近くになりペナントの沢山あるところに着いたらまた地上30mの吹付コンクリートの大斜面上部だった。前回見た降り口の鉄骨階段はどこだ？左とみて100m位トラバースしてくぼんだ所で階段が有り鴨川道路に降り立った。前回の駐車場まで5分位で到着した。日没まで後15分位だった。暗くなったらと思っただらぞっとした。タクシーを呼んで鴨川駅

に向かった。(山口)

2022-01-10

中央線沿線 寺下峠～立野峠

最寄りの駅から甲州街道を少し歩き、脇道に入る、山は薄いガスに覆われ、尾根は見えない。峠間で2人組のハイカー氏と立野峠でお一人、都合3人静かなハイイクであった。(伊藤 守)

2022-01-15

奥多摩 御岳～青梅

青梅線 御嶽駅から高水山迄登って一旦下山。軍畑駅の途中から、車道を登り返して、青梅駅まで歩きました。結構早く終了しそうで、途中、登山ルートと平行した登山道を歩くと、青梅手前で藪の中へ。踏み跡らしきところをずっとあるいたもの見失いやむを得ず沢に降りる事に成ってしまった！！50m位登り返せばルートに戻れそうだったが、どうするか？沢沿いに獣道があり、少し先まで歩いてみると広場らしき所がある！！進むと 青梅の杜 に出た！！良かった！！青梅の杜から破線ルートを少しだけ登ってルートに戻って脇道にそれないように青梅駅まで順調に到着し終了。途中日向和田に降りて反対の山を登ってから青梅駅を目指した方がもう少し歩けたかな？？トレランの皆さんは私より2時間位歩くスピードが速く5時間弱で同じルートを走っていた。遠くまで行けて羨ましい！！その他高水山は人気のルートで奥多摩観光協会友の会25名位、クラブツーリズム15名位の人たちともすれ違いました。

(黒澤)

2022-01-22

### 奥武蔵 芦ヶ久保～武蔵横手

これまでは、西武線沿線は正丸駅から伊豆が岳を起点に武甲山や子の権現、飯能方面に歩いていましたが、線路の反対側も縦走できることを知りそちら側を芦ヶ久保駅から武蔵横手駅まで歩きました。いろいろな方とお会いしました。なんと92歳のハイカー、年々体力は落ちているものの毎週登っているらしい。元自衛隊の高齢者は訓練で35kg背負っていたらしい。丸山展望台はとてめ眺めが良く、武甲山や男体山、日光白根等の日光連山、谷川も良く見えました。58歳のYippeいさん歩くのが早くてついて行けない。大体コースタイムの0.6倍位で歩いているらしい。Yippeいさんから西吾野までの地図をいただいて助かりました。感謝！！。関八州見晴台は人気があるらしくものすごい人ひとひと！！軽く食事をして先へ。後ろからトレランのお二人。顔振峠に着くと平九郎茶屋！！のども乾いたし、ろくなもの食べてないなあと、眺めているとうどん あったかそう！！ 店の中で皆さん鍋で盛り上がっている！！ 先を急ぐか迷ったが、店に入って肉うどんを注文！！ 皆さんは秩父の日本酒！！ うどんの追加！！ どんどん注文！！ 2人組は先ほどのトレランのお二人！！ お勧めは、しし鍋と日本酒が合うとの事。ここから下ればすぐに吾野駅に行けるし、先に進めばユガテまで行けるとの事。お二人にこの先を左に入れて、諏訪神社を通過、エビを右に行く！！ そして目指すはユガテ！！ へ教えてもらった。ユガテは伊藤に一度連れて行っていただいたことがある！ユガテって何だろう？とずっと思っていたので覚えていた。とにかくユガテを目指した！！ 次にすれ違った登山者は、飯能から歩いてきて暗くなったらテントを張るらしい。自分も頑張らなくては！！ と思いつつもやっぱり不安になって伊藤に電話するも、電波が弱くて繋がらない！！ とりあえず、目指すはユガテ！！ 16時にユガテに到着！！ これで帰れそう、良かった！！ ここから標識が東吾野となっている！！ しばらく進んだものの、武蔵横手駅に向わなくて！！ これが間違

いの始まり！！ユガテまで引き返して、林道を下った。かすかなスマホの破線（地図をダウンロードしていないので、破線も破線！！ただの破線）！！こんなに下ってどうなるんだろう？？先週と一緒に！！かすかな踏み跡の沢を進む！！周りを見ても登り返し必須！！方向だけはあっているの、その方向へ！！赤テープ発見！！曲がって次の沢を登り返すが、あそこが登山道かな？と沢を外れていつものように詰めていった。あまりの急騰で折れた木をピッケル代わりに地面に突き刺しては一步また一步進んだが登山道ではなかった。身体は体温が上がっていたので、あまり寒くないから最悪ビバークも覚悟しながら、遅くなくても歩いた方が良いかな？などと考えた。とりあえずヘッドランプとストックを取り出して先に進んだ。（ヘッドランプに電池を装着したが明かりがつかない！！何度やってもつかない！！予備の電池に変えて点灯したので安心したが、焦っていたので、ヘッドランプの爪を破損してしまった。残念！！でも一応明かりはついているので良いか！！先へ進むと方向はあっていたので、やっぱり登山道へ出ることが出来た。少し進むと標識が！！「深沢山、水晶山、愛宕山 反対に武蔵横手」おかしい！！向かう方向は標識の武蔵横手駅の方向とは反対方向のはず？？伊藤先輩にお助けの電話。だんだん暗くなってきたので、迷った挙句、標識通り歩いてきた方向へ戻ったら、分岐があってUターンするように登山道があった。こういうことかと納得。五常山を通過して長尾根山に着いた。もう真っ暗。ここで標識があったので、まっすぐ進んで急坂を下ったものの、スマホの破線とどうもずれている。流石にここで道を間違えるわけにはいかなないので、長尾根山まで登り返してみた。何度も行ったり来たりして、ここは違うだろうというところを下ってみると、階段になっている。明るければわかるのに暗くなってからはやっぱり道を見失うなと思いつつ葉っぱで隠れた階段を下った。ぽつんぽつんと明かりが見え始めて、これで下山できそうと安心して武蔵横手駅に到着。自販機があったので乾いた喉を潤して電車を

待った。待っている間、かなり身体が冷えてきて、指が痛い。やっぱりこんな状態でのビバークは耐えられそうにない！！と反省した今回のハイキングでした。いろいろな方にお世話になりました。ありがとうございました。(黒澤)



2022-01-29

#### 奥武蔵 二子山～伊豆ヶ岳～天覧山

1/29 芦ヶ久保 駅に降りるとさすがに寒い。神社側登山道で氷柱祭りをやっていたが「氷は登るもんであって見るもんじゃない」が持論でスルーして登りだす。道が急登になり視界の悪い二子山 雌岳に着く。続く雄岳からは武甲山、両神山、浅間山などが見える。様々なピークを越していくが西武秩父線沿線の山だけあって登山者は多い。1,000m 級の山なので全体的に樹林帯で展望は望めないが道、標識はしっかりしている。しかし最近低気圧が来ていないので道が乾燥しすぎて足元が土埃だらけである。凍傷の手は他の人と違って厚手の手袋でも痛い。伊豆ヶ岳から子ノ権現までは過去にトレースしている。天目指峠も分かりにくくヤママップで助かる。子ノ権現では福寿草が咲いていた。水を 2ℓ 給水して、さて何処にテントを張ろうかと車道を下ると見晴らしの良い駐車場に着き給水タンクの裏に設営した。秩父の夜景は見ごたえあった。

1/30 今日の出だしは点線ルートなのだが道は明瞭と資料にあったので 05 時半出発した。2 時間歩いた前坂から登山道となりアップダウンも少なくなり飯能アルプスに入り すれ違う人はトレランが 7 割、登山者が 3 割の比率か。大高山、天覚山、久須美ケルン、宅地横から多峯主山に来ると人がどっと増える。富士山は見えなかった。下って湿地帯を過ぎ左に上り返すと天覧山であ

る。飯能駅に着くが計画通り 約 9 時間であった。(山口)



2022-01-30

#### 会津高原 高杖スキー場

1月30日(日)の朝、スタッドレスを履いた愛車に元東京朝霧山岳会会員の妻と、スキー用具を載せ吉川の自宅を出発する。東北高速を走る頃には夜も明けて、進行方向には日光連山が悠然と姿を現します。西那須野塩原インターで国道 400 号に入り雪山に向かいました。ここ高杖スキー場は会津七ヶ岳の登山口にあり、標高が高い分良質の粉雪に恵まれコースも中級が多くここ 3 年ばかり通っています。今夜の宿で宿泊者割引のリフト券をゲットしいざ初すべりです。コロナの所為か団体の客は見当たらず、スノーボードの若い人のグループが 6 割で、残りが家族連れ、シニアの客といった状況でした。粉雪のコースなのでエッジが利き、スピード出すぎる傾向でしたが、グレンデが広いので安心して楽しめました。夜はワインを 1 本明けて、マスターの自慢話を聞き明日に備えました。31 日はあいにく雪でそれでも時々薄日もさすコンディション。疲労の事も考え控えめにコースにトライし、妻のご機嫌を伺いながら明るいうちに那須迄帰ろうと、3 時に切り上げました。南会津は正に日本の山村の原点ともいえる地域なので残雪期、夏山も計画したい山城です。(伊藤 源、他 2 名)

2月

2022-02-05

丹沢 北尾根～長尾尾根～政次郎尾根

どこに行こうか迷いに迷いましたが、結局丹沢になりました。今回のミッションは、未踏ルート「ヤビツ峠～丹澤国民宿舎(丹澤ホーム)～長尾尾根～新大日～政次郎尾根」ヤビツ峠から国民宿舎まで約1時間40分のアスファルト車道歩きはちょっとなあ？と迷った結果、大山～北尾根～地獄澤～国民宿舎のルートもあると思い、時間はかかるが急いで歩けば何とかかな？と、こちらを選択。ヤビツ峠から大山に登り、北尾根を進んで、突き当たりを左に！！この先が未踏ルート。鉄塔を過ぎて地獄沢に向かうところ右に折れて、下に目的の車道に出ることが出来そうなので(破線ルート)ショートカット！！しましたが、いつものように間違えて軌道修正したもの少しだけ手前の堰橋(清川村との境のようです)に出ました。今回の目的の長尾尾根！！登山口に着くと崩落の看板とロープ！！通行止め！！一旦諦めて帰宅するにはどうしたらよいのだろうと考えてうろうろしましたが近くの方に訪ねると、歩いている人結構いるらしい！！自己責任で行ってみるか！！しかし、ここまで飛ばして歩いてきたし、一旦帰ろうと行ったり来たりした疲労と折れた心。身体にも心にも重くのし掛かってきました！！結局踏み入ってみました。ところどころ急登で登りっぱなし、何度か休みながら登ると、緩斜面では余裕が出て来て、左に大山や三の塔、右側に塔ノ岳と、このアングルは珍しい！！と思いながら、何とか新大日に到着！予定よりも早く着くことが出来ました。ここから大倉に下山出来ると思ったら、行者まで下らなくて、予定のルートに出ない？？疲れた身体でしたが、下りなので何とか政次郎尾根へ！こちら未踏ルート。ゴロゴロ石の上を歩いて戸沢に着いた後は林道をのんびり歩いて大倉へ！！明るいうちに戸沢へ出たいと思っていましたが、前半飛ばした分かなり早くたどり着いて一安心しました。  
(黒澤)

2022-02-06

栃木 唐沢山

最寄り駅より歩くが、風はないが寒いので、日向側の道を急ぐ。ほどなく入口の神社、蛇口から水は出ない。先をいき、登山道で向かい方向より「灰色の猫」と出会う。先を行こうとすると、地面に寝て「甘えて」いるのか、先へ進めない。困ったものだ。しょうがなく、跨(また)いで先へ、神社を過ぎいつもの送電塔下のベンチで休憩、「まん延防止」なのかここまでハイカーと合わないとおもったらこの先すぐ、3パーティと相次いで会う。京路戸峠を通り、多田駅まで歩き、午後から仕事とあいなった。(伊藤 守)



2022-02-06

飯土山 舞子スキー場

昨夜より準備し、ガソリンを満タンにした愛車で自宅を5時に出発。順調に水上ICを通過しましたが、トンネル付近から雪が本降りとなり、土樽は完全な雪道となって先行車両との車間距離に気を配り、石打、塩沢ICより今夜の宿へ向かう。宿は企業人の頃保険組合の補助対象の宿で、すっかり常連の客となっていました。コースはあいにくの大雪で視界が悪く、スピードは出せませんが雪質は上で又、ゲレンデが多いので明日に備えて下見を兼ねてリフトを乗り継ぎました。それにしても若い人たちはほとんどがボーダー好みようです。宿は気のいい母さんで、なんと日本酒の美味しい事、布団に入りながらオリンピックジャンプを見て、雪の音を聞いて就寝となりました。

翌日は、時々薄日の差す日和で視界も効いてきたので、上級コースに挑戦しましたが、体重がかかるとに乗り切れなくて華麗な

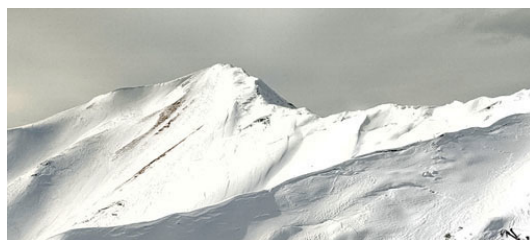


滑りとはいかなかったにですが、どうにかこなし、振り向いてそういえば20歳台の頃舎弟と岩原スキー場から尾根で1泊しながらここまで山スキーで来たことがあったと、記憶を手繰りました。お母さんと、娘のあかりは初級から中級の間位がお気に入りのようで、颯爽と風を切っています。帰りは除雪も終わり融雪剤の中、晴れの待つ吉川にハンドルを切りました。20～21日は井上夫妻と石打から先の上越国際スキー場を予定しています、今季は積雪が多いので楽しみです。(伊藤 源、他3名)

2022-02-12

### 谷川岳 天神尾根

キムチ鍋で土合に前泊、締めはおにぎりとチーズを入れておいしくいただきました。12日8時過ぎに谷川ベースプラザに行くとチケット売り場には長蛇の列。ロープウェイ頂上からの登りは5歩歩くとストップ、3歩歩くとストップ。スノーシューの人のうしろを歩くとせっかくのステップが無くなって歩きにくいような新雪を楽しめるような・・・しかし、トレースはありがたいです。何とか肩の小屋が見える辺りに着いて、先にオキの耳に・・標識は雪に埋まっています。土樽方面から歩いてきた方に訊いたところ、西黒尾根を登ってきたとの事。私には無理ですが、羨ましいです。トマの耳はきっちり標識がありました。肩の小屋のところで一休み。下りは好きなところを歩いたり尻セードで滑ったりで渋滞もなく楽しい時間を過ごすことが出来ました。天候にも恵まれ遠くは富士山も見えましたし、近隣の山々はばっちり!!多くの皆さんがやってくる理由がわかったような気がしました。下山途中でお会いした高齢者の方が、50年前にスイスの先代ベントが作ったという木製のピッケルを取り出し雪に刺しました。シャフトは美しく剣先は当然金属ですが、錆一つなく本来であれば博物館に飾られていてもよいものだとこのことで、写真撮影と持たせていただきました。50年前の品物とは信じられないほど完璧な美しいピッケルでした。ありがとうございました。(黒澤、他1名)



2022-02-19

### 飯能アルプス 武蔵横手～飯能

1月に芦ヶ久保駅から武蔵横手駅迄歩きましたので、今回はその続きで武蔵横手駅から飯能駅まで歩きました。相変わらず登山口がわからず、この辺りかなあ??と、林道から山中に踏み込むと何故か前回迷いに迷った長尾根山に着いてしまいました!!(考えていたルートは通れなかったみたいです)そこには小さな標識が付けられていて、前回駅まで行った道はわかるのですが!!やっぱり見方がわからず、別ルートにチャレンジしましたが、また、迷ってしまいました!雨の心配もあり、結局、五常の滝に向かう林道に出ましたので、それ以降は無難なルートを選択し飯能駅まで迷うことなく無事駅にたどり着きました!天覧山ではザイルを装着して岩の講習をやっていましたので、しばらく観戦させていただきました!ありがとうございました!楽しそう!!(黒澤)

2022-02-20

### 上越国際スキー場

2月20日(日)朝5時、越谷を毎年恒例となっている上越国際スキー場に向け4人で出発する。順調に距離を伸ばし、いよいよ関越トンネルとなった辺りから天候は雨模様となった。とにかく今年は豪雪です。ホテルに着いてゲレンデに出る頃には雪となり、それがやむ気配は無くやはり天気予報通りだなーと思いつつ、高みを目指す。ロビーでは例年ですと国際と謳ってあるように、英語、中国語、韓国語が聞こえますが、一部下品な米語を話す迷惑なグループだけが目立っていた。とにかく今年は雪が多い、その所為かゲレンデは起伏が少なくエッジが利くが、視界が悪く思い切って滑走できず、目測

を誤るとコースアウトとなり抜け出すのに一苦労です。一通りゲレンデの様子を確かめ、雪もやむ心配が無いのでちょっと早めの帰宿となった。夜はビールと日本ウイスキーで旧交を温め、オリンピックの閉会式を眺め、雪の音を聞きながら眠りに就いた。

翌日は朝から吹雪模様となり、視界が利かずコースアウトしそうになったので、無難なコースで基本に忠実に心を掛け、もしかしたら今季最後のスキーかなと思いつつゲレンデを後にした。それにしても、井上夫妻の颯爽としている事。大雪なので帰りの高速道路状況が心配だったが案の上、湯沢、水上間が通行止めとなり止む無く国道 17 号に迂回したが、吹き溜まりにはまった車もいる三国峠を、井上氏のドライブテクニックでどうにか越して、月夜野から高速に戻り帰京となった。スキー場はとにかくボーダー客が多く、座り込みを避けるのがテクニックの一つのようです。齢 70 歳も越し、継続は力なりと普段から体を動かすようにしていますが、使う筋肉が違うのか腰痛が取れません、皆様もくれぐれもお体を大事に。（伊藤 源、井上、他 4 名）

2022-02-23

#### 関東平野 筑波山周回登山

ひと月半、山から遠のいていたので足慣らしに筑波山に出かけた。駐車場に到着してスマホを忘れたのに気付く。去年は雪がゼロだったので置いておくことにした。（これが大失敗だった）薬王院コースから出発する。連続する階段前の林道を左折し数分歩いて踏み跡のしっかりした第二尾根？に上がる。段々雪が多くなってきたがあっという間に坊主山(710m)積雪 10cm 位か。下り一回降りて第一尾根を降りる。トレースがあるがしっかり固まっているので雪面を歩いたり、又はブッシュをつかんで降りる。林道に降り男ノ沢を過ぎ女ノ沢に入る。最初は雪も少なかったが高度が上るごとに段々深くなり、上がるのに雪面に手を指して登るようになった。キャンプ場コースと合流しまもなく女体山(875m)に到着する。頂上からは筑波山連峰、吾国山、霞ヶ浦、初めて見る富士山までくっきりだった。ここから

の下りは道がすっかりスケートリンクみたいになり手摺とロープを掴まないと歩けない。御幸ヶ原は人が一杯だった。男体山さんから薬王院へは通行禁止になっていたが降りると展望台から下の階段は雪で凍ったスロープになりここもロープと、腐った手摺にしがみつくしかない。その下の連続する階段も海拔 500m までは凍ったスロープにブッシュ、手摺を掴みながら降りた。本当に悔やまれた。やっぱり山を甘く見てはだめだ。（山口）

2022-02-26

#### 西丹沢 同角山稜

先日丹沢大倉大橋で知り合った「あつしさん」と新松田バス停で待ち合わせし西丹沢の同角尾根に行きました。彼はまだ登山経験 2 年目ですが長距離を猛スピードで歩きます。どうしても同角に行きたいとのことと計画もお願いしました。今回の計画では、箒沢公園橋～同角山～ユースン～鍋割山～大倉でコースタイム 13 時間、標高差 2300m！！ついていけないと思いながらも、途中で別れることを覚悟して一緒に行くことにしました。こんなことから彼にルートファインディングもお任せでずっと先行していただき、細尾根や鎖、雪道などいろいろと楽しませていただきました！（(人"▽`）ありがとうございます☆）久しぶりのユースンも雰囲気は最高でした。しかし、彼はスタートから大変なことばかりです。朝、新松田の立ち食いそばに寄ってバスに乗れずタクシー代 9000 円以上払って公園橋に到着。いつもよりもゆっくり歩いてくれたものの、荷物が重かったのか、ジャケットの下に（早いうちに脱ぎましたが）ダウンを着用していたので多分軽い脱水症だったのか、途中から登りがつらいようでした。ユースン到着が 14 時半過ぎ。予定よりも早いものの、鍋割山まで標高差 500m あ



り、雨山峠まで行ってどうするか決めることに。分岐で沢を下るのは危険で嫌だと思ったものの、このコースが正解で寄(やどりき)にエスケープできて17時45分にバス停に着きました。バス出発まで1時間待ちのため蕎麦屋で反省会をしました。(黒澤、他1名)

2022-02-26

### 丹沢 表尾根

山行トレーニングとしていつもの丹沢を歩いてきた。土曜日の早朝に出発し大倉バス停に着いたのは9時10分。どんぐりハウス前で荷物を整理し9時25分に出発する。戸川公園の風の吊り橋から下に見える紅白の梅の花がきれい。吊り橋を渡り三ノ塔尾根の末端から登り始める。雪交じりの泥道になった登山道を上っていく。風もなく温かい登山日和の一日だ。下着1枚でも汗をかぐくらいだ。三ノ塔の頂上は、土曜日とあって登山者が多い。1,205mの広々とした頂上から東側に大山、三浦半島、房総半島、西側に富士山、塔ノ岳、鍋割山、丹沢山が見える。休憩小屋に入り一休みする。烏尾山への下り道は、雪が氷っているのでチェーンアイゼンを着ける。塔ノ岳に向かう表尾根の縦走路には雪が残っている。このためなのか縦走路には登山者の影は少なかった。塔ノ岳には遅い時間に着いたので山頂の広場には登山者は2,3人しかいない。大倉尾根の下山道に雪はなくチェーンアイゼンは必要ない。下りの途中でヘッドランプを取り出し、午後7時前に大倉バス停に到着した。(塚田)

2022-02-27

### 箱根 駒ヶ岳 敗退

国府津から御殿場線に乗ると人も少なくなるが足柄、鮎沢川沿いの車窓も風情があって楽しめる。右手の山々が丹沢だ。御殿場駅で降りてバスに乗り、乙女口で降りすぐ歩き出す。海拔800mだが樹林帯は雪がびっしりある。すぐ乙女峠になり右手の外輪山ハイキングコースになる。雪はずっと残っている。富士山が大きく見える。丸岳からは芦ノ湖、これから向かう駒ヶ岳、神山の山

容が素晴らしい。長尾峠から仙石原に降り、湖尻、桃源台と歩き防ノ沢登山口に着く。コース閉鎖と頑丈な柵がしてあったが登りだす。1,000m位からは雪が段々増えていくがトレースがあるので苦にはならない。神山と駒ヶ岳の分岐に着いたが通行禁止の柵がしてありトレースは無い。神山に向かうがえぐられた道が吹き溜まりになり股下まで潜るし雨具は無いし、夏靴溶けた水が入るのであと40分位残して退却することにした。桃源台まで戻りバスで小田原まで行き、乗り換えて帰宅した。(山口)



3月

2022-03-12

### 丹沢 焼山～大倉

バスに間に合わないと思っていたところ相模湖駅からのバスには間に合うらしいとの情報を得て焼山を目指しました。相模湖駅にはそれほど多くはなかったものの三ヶ木でバス乗り換えると中央線と橋本からの登山者で全員は座れない。裏の方から西丹沢辺りに行けるらしい。焼山登山口を7時半にスタート。あまりの急登で焼山に着く前に退散しようかと思うほど。荷物は少なくしたはずが重い。焼山からは残雪道を進む。姫次に着くと蛭ヶ岳手前に300mの魔の階段があるとの事。結構な坂だったので、軽アイゼンがあった方が楽だったが、荷物を減らすため持参しなかった。反対から来るハイカーも皆さんチェーンスパイクを装着している。魔の階段もゆっくり進んで蛭ヶ岳に到着すると13時前。この時間なら帰れそうだ。蛭ヶ岳山荘で水分補給(ペットボトルもビール350mlも500円)して丹沢山

まで2時間、塔ノ岳まで1時間半、大倉まで2時間半19時着を目標に再スタート。稜線はほとんど泥沼状態で入らないようにしていたがだんだん余裕もなくなり靴もズボンも泥だらけ。丹沢山で休憩するところにいる人たちは皆さん焼山からの登山者。このコースこんなに多くの方が歩いているとは意外だった。久しぶりに苦しい山行でした。(黒澤)

2022-03-20

#### 箱根 金時山

三週間ぶりの箱根、外輪山登山。過去4回の山行晴天から大展望を期待して出かけた。御殿場駅ではバス時刻が10分過ぎても来ないのでタクシーに乗る。登山口から北面の登りは雪も無くなっていて。金時山山頂は、人も溢れんばかりで高尾山並みの混雑で座れる場所も一苦労である。大展望予定が富士山でゼロ。芦ノ湖はかすかに見えるが駒ヶ岳は見えない。縦走に向かうが混雑も仙石原分岐迄でその先は人もまばらになる。やがて天候は曇りから冷たい雨になり、明神ヶ岳では周囲ガスだらけになった。宮城野バス停では10分毎にバスが来るので助かるが乗って間もなく渋滞になり「宮ノ下」で運転手さんの勧めにより箱根登山鉄道に乗り換える。6回乗り換えて帰宅した。今回アプローチ4時間。登山時間7時間半。帰路に4時間半と長かった山行でした。(山口、他1名)

2022-03-27

#### 栃木 大平山域 晃石山

ヤボ用があり、大きく迂回してからまた駅間を歩いたり、最寄り駅に9:40着遅めから歩き始める。Tシャツでも丁度いい感じで、まずは里山風景を眺めながら、大中寺へそこからは登山道を小一時間で、「ぐみの木峠」に出る。ここ2ヶ月山お休みで疲れる。小休後、晃石山へは多少の登下降はあるもの楽である。頂上での日光連山は雲の中である。いつもとおり、ここより直接下山するがこのコースは今日に限り人が多いといっても4人さんを抜いて、1人抜かされた。最寄りの駅までは一時間程度である。

今回携帯を新調し、歩数計がついてる、家を出てから帰るまでではあるが、37,700歩(24.5km)のようである。(伊藤 守)

## 4月

2022-04-17

#### 中央線 沿線 寺下峠 ~矢平山

最寄り駅より歩き始めると「超小雨」！傘、雨具を忘れたので、本降りになったら「やめるか！」と思いつつ先を急ぐ、登山口で小休。何とか持ちそうだし、幾分空も明るくなった様な、トラロープ付近を通過、尾根に出ると矢平山が見える、峠で小休、矢平山への登りは40分程度か、黒澤にメール送り、新大地峠より四方津へ降りる。すれ違いのハイカーさんは単独2名+3人組1と相変わらず静かな山道であった。(伊藤 守)

2022-04-19

#### 山口さんの登山漫遊記！

#### (4/8) 美濃三河高原、茶白山 1,415m(愛知県最高峰) (山口)

牧場の裏山の印象だが飯田が近いので中央アルプスが間近に見えた。汗もかかなかった。

#### (4/12) 紀伊山地、和歌山県最高峰、龍神岳

なだらかな山だか誰も歩いてない。見晴らしも良くない。きいはの真ん中まで来たのになあ。

#### (4/14) 奈良 金剛山地 大和葛城山(959m)

登山口から急峻な山を見上げる。高度差700mを一気に汗だくになりながら登る。頂上はカヤトになっていて風が気持ちいい。左手は金剛山だ。眺めはイマイチなのが残念。

#### (4/16) 六甲山系 六甲山(931m) 魚屋道~

人気の山で駅から迷う事はない。高級住宅街を抜け雨ヶ峠から最高峰へは10時過ぎに到着。天気はいいが神戸の町並み海と大展望。満足。下山後は有馬温泉太閤の湯に

入る。2,935円。それなりの湯と造りであった。帰りは有馬温泉駅～有馬口～田上～三ノ宮～芦屋川駅と乗り継ぎ戻った。



#### (4/19) 讃岐山脈 石鎚山 (1,982m)

仁淀川からよさこい峠、そして土峠から歩き出す。1,485m 迄車で運んで貰うので楽である。パートナーは若かりし頃六甲山全山を 1day13 時間で歩いた強女である。暑くも、寒くも無く快調に進む。処々残雪があったが難なく弥山に着く。石鎚山脈、剣山、四国山地、瀬戸内海まで一望できた。天狗岳を往復して無事下山できた。今度は石鎚山脈～登ろう。(山口、他 1 名)



2022-04-22

#### 八ヶ岳連峰 赤岳～阿弥陀岳

前回(昨年 8 月)山行から随分時間を空けてしまったので登山の感を取り戻すために山行トレーニングを行なった。

(4/22) 早朝暗いうちに車で美濃戸口に向かう。平日ともあって八ヶ岳山荘の駐車場には数台しかない。駐車料金を支払い、いつものように登山届ポストに届書を投函する。北沢コースで赤岳鉾泉に向かう。林道は落葉松の芽吹きが始まったころだ。美濃戸口(標高 1,490m)と赤岳鉾泉と標高差は 730m である。堰堤広場を過ぎたあたりから

雪道となった。赤岳鉾泉から見える横岳、赤岳、阿弥陀岳の山々の岩峰は雪解けしてしまっただが、その他の多くの斜面には雪を残していた。

(4/23) 朝の暗いうちに出発しようとしていたが、もたもたしているうちに明るくなり 5 時過ぎになってしまった。雲一つ無いまさに登山日和である。早朝の山道は雪が凍って滑るので出発早々アイゼンを着けることになった。行者小屋前の地蔵尾根ルートから地蔵の頭に向かう。赤岳鉾泉から地蔵の頭まで 496m の標高差である。樹林帯が急斜面になりだしたころピッケルを取り出すとともにヘルメットを装着する。森林限界を越えた岩場にかかる金属梯子の上部の雪が凍っている。ここで数歩のアイスクライミングとなった。冰雪面に刺さるピッケルとアイゼンの感触に感動する。地蔵の頭(2,716m)からは清里方面の街並みが良く見える。また、薄もやにかかった富士山が遠く望める。ここから山頂まで 183m の雪面の登りとなる。雪面に反射する陽の光が目刺激する。赤岳展望荘は、平日とあってひっそりとしていた。赤岳(2,899m)山頂には、私ひとり以外に登山者の影はなかった。山頂は雪が溶けて露岩が現れている。ここから遠くに雪を冠した北・中央・南アルプスの山脈みが見渡せる。南側の旭岳、権現岳、三ツ頭の山頂部も雪で白くなっている。山頂の赤嶽神社と六神三十柱が祀られる太政宮の二つの神社で東京朝霧山岳会の安全祈願をして下山を開始する。文三郎道の分岐地点から中岳までの登山道の雪は溶けている。文三郎道の分岐点でアイゼンを脱いだ。中岳から阿弥陀岳までの稜線は雪稜となっているので再びアイゼンを装着した。両側が切れた雪稜を歩くが、所々雪を踏み抜いてしまう。大事には至らなかったが緊張する場面であった。阿弥陀岳への登りは下部と上部は雪道を歩けたが、中間部の急斜面は雪が腐っていたのでボロボロの岩稜部を登ることにした。阿弥陀岳(2,805m)の山頂は雪にほぼ覆われていた。一人若い登山者が登ってきた、雪の状態が悪いので御小屋尾根を下りると言っていた。摩利支天にロープに繋がれた 3 人の登山者が見える。

写真を撮りすぐさま下山に取りかかる。稜線直下の急斜面の登山道には這松に結ばれた残置ロープが2本張ってある。このロープを頼りにずるずると緩斜面の岩場を下降する。雪の消えた登山道でアイゼンを脱ぐ。樹林帯に入り不動清水で休憩する。平坦な樹林帯の尾根上では残雪に足を取られ何度もスリップしてしまうがチェーンスパイクはザックの奥にある。御小屋山(2,137m)山頂に何かうごめくものを見た。何頭かの鹿の群れのような。疲れが見えてきたと同時に美濃戸口にたどり着いたのは午後5時過ぎだった。今回は最後まで天気が荒れることなく時間がかかったものの計画通りの山行ができた。(塚田)



2022-04-23

高尾～津久井湖 ギブアップ報告!

GW登山のためのトレーニングに高尾から津久井湖まで歩きました。拓大尾根という尾根があるらしく目指しましたが、相変わらずルートの間違え、金毘羅山～草戸山方面と一本違う尾根を歩いてしまいました。拓大尾根に戻ろうとしましたが、更にルートの間違え拓大尾根の30mほど下の沢ルートを歩きました。しかし、ここがとっても良いところだったので、そのまま歩きました。誰とも会いませんでしたがテープが結構ありましたので助かりました。その後、拓大尾根の最終地点辺りに出たのですが、そのルートを進んで行くと結局草戸山に着きました。草戸山からは城山湖、三井大橋、津久井湖と歩くと三ヶ木行のバスが走っていました。宮ヶ瀬も考えましたが津久井警察辺りでギブアップして次回目指すことにして橋本行のバスに乗車しました。(黒澤)

2022-04-28

奥武蔵 天覧山-日和田山

リハビリハイクの鎌倉西山をクリアしたので、次ステージ「朝友ハイク」偵察山行に、天覧山-日和田山へ行って来ました。天覧山も日和田山も、入会後は足しげく通った所です。しかし、当時は岩トレ目的だったので、頂上はおろか周辺も一切歩いたことがありません。その為、今回の偵察ハイクは極めて貴重なものとなった。当時は何か、電車の便の都合か何かで、東飯能駅で下車したような記憶がありますが、電車次第の成行き任せで出掛けることにする。・・・で、結局は飯能駅下車となる。駅前からは、案内看板に任せて天覧山に向かうことにする。当時は近道路地裏を通った気もするが・・・『あった!知ってる!』頂上間近の羅漢像。着いた。頂上だ。『これが、天覧山か。』初見参の為か、懐かしさも何もないが、天覧山の命名が頷ける素晴らしい見晴らしであった。宴会は、山頂まで登れぬ御老体連を考えれば、登山口の中段広場となるのだろうか・・・(勿論、御老体とは北村 san や西 chan 達の事で、小生は含んでいない)血気盛んな現役達は、宴会後に多峯主山経由で、日和田山や物見山まで行けば良いから。『よし。ウダウダ言っていないで、リハビリハイク後の休養もバッチリなので、次の日和田山に向かおう!』と、そそくさと出発する。天覧-多峯主山地を抜け、一旦高麗駅に下る。高麗駅は、とても懐かしかった。それは、特徴的な駅前の「赤いトーテンポール」チャンスン(朝鮮魔除け=將軍標)が健在だったから・・・。当時は山しか関心がなく、ただ不気味な印象であった。駅前から、日和田山に向かう。道筋の記憶は全くないまま、突如見覚えのある岩場前の広場に出る。『ここだ!懐かしい。夏冬となく通ったあのゲレンデだ。』夏シーズン前と冬シーズン前には、必ずここに来ていた。特に冬前の「手袋とアイゼンでの岩トレ」が思い出される。新人研修も、何本もザイルを垂らして、ここでやった。初めての日和田山の頂上。一度も来たこともない筈なのに、何か懐かしい・・・既知感(デジャビュ)である。北の尾根先に、鉄塔が見える。辿ってみると、そこはNTT 中継所で

高指山だった。尾根はここから下っているが、その先に目障りな高い山がある。山屋の性分として、見過ごす事はできない。一旦尾根を下り駒高集落に出て、更なる高山を登る。そこは一等三角点 375m の物見山だった。・・・『やったネ!』懐かしい岩登ゲレンデと、モヤモヤしてた地形概念。半世紀を経て、初めてクリアーとなった。ウレシイ。

( 植田 )



2022-04-30

神戸 六甲山

一時読み漁っていた新田次郎「孤高の人」の主人公 加藤文太郎氏。いつかは六甲山へと思っていたのですが、全山縦走は無理でしたが、ほんの少しだけ六甲山を歩くことが出来ました。スタートの宝塚駅からはずっと雨!! 相棒の傘とあっちへ行ったりこっちへ行ったり!! ほとんど、六甲山を独占状態で最高峰まで会ったハイカーは数名!! 写真をお願いしたかったのに最高峰は誰もいない!! 残念!! その後、名物なんではないか?? ガーデンテラスで蜂蜜入りビールとコロッケをいただき、雨もやんでいたの下山開始! 摩耶山まで行くか迷ったのですが、アイスロードを下山。沢沿いを歩いて徒渉、秘密のトンネルをくぐったり、初めて来てこのルートに出会えるとは。六甲駅まで歩いて 22 km でした。( 黒澤 )

2022-04-30

秋田 阿仁スキー場

今年は豪雪だったので残雪で大変かなと思って、愛車を操り大館市の古民家を出発する。秋田道の無料区間を利用し約 2 時間弱で森吉山の麓のマタギの里阿仁スキー場に到着、残雪は思ったより多くはなかった。ゴンドラを使って中腹のゲレンデに向かう。

乗客は登山者とスキー客が半々です。昨夜の新雪でコースは真っ白、天気は快晴、ほぼ貸し切り状態の中奥羽の山脈めがけてスキーを滑らす。尚、春山コースはリフト 1 本、ゲレンデは 2 コースです。今季は大雪のせいでほとんど視界なし状態の滑走だったので、快適そのものの世界でした。それにしても食堂の水の美味しい事。帰りは阿仁前田温泉駅に立ち寄り汗を流し、夕食材料を仕入れ父親、母親のにおいのしみついた故郷の築 75 年の我が家に愛車の TANK を走らせた。大館市は忠犬ハチ公の生まれた里、なんにもないとゆうけれど、なんでもある処です。( 伊藤 源 )

5 月

2022-05-01

福島 いわき 鬼ヶ城山

いわき市営研修所 (光学レンズ研修!) の裏山「鬼ヶ城山」へ、前日夜 12 時頃まで呑み、前回同様、気分は最悪、朝 5:30 出発、キャンプ場を通り過ぎ、ほどなく急な斜面となる。今日は曇天、尾根にでると風が少々、予報通り、午後から「雨」か! 東峰に着くと見晴らしが良くなり連なる里山、早々に西峰を通り、一気に鬼ヶ城の研修所へ、7:00 に着く。気分は「まあまあ」となり今回の小さな山行を閉じた。

(伊藤 守)

2022-05-03

秋田県大館市 鳳凰山

大館市の象徴とも云われる鳳凰山、室町時代にこの地区を治めていた豪族の浅利氏が守瑞禅師を開山として開いた禅寺にちなむ信仰の山です。午後から天気が怪しいとゆうので早めに帰省している親類の山好きの若者達と、車を連ねて麓の登山口に向かう。麓は桜が満開で正に春爛漫、貯水池には鴨の番が幸せそうに水紋を描いています。山麓を右に左に登って尾根を辿り途中お盆の送り火、大文字の点火地点で此処が一画目、これが 2 画目と燃えかすの薪を慰め、いよいよ最後の急登です。若いものには負けては朝霧の名折れと必死に高度を稼ぐ。

山頂は広く地元のメディアがせっせとカメラを向けていました。展望は市街一望で町の発展の様子がよく分かりました。西の方の雲行きが怪しくなってきたので、弁当タイムはそこそこに下山をなりました。鳳凰山は登山道もよく整備されており、登り2時間下り1時間30分の山で、噂によると毎日登る人がいるとの事です。それにしても登山者の服装のカラフルな事、登山靴、朝霧マークのザックが好奇の対象となったようです。下山後はお決まりの温泉につかり、夕方からは親戚を集め焼肉パーティとなりました。現在主流の山行は量より質とみえ、結構遠くの著名な山に人気があるようです。

(伊藤 源、他 6名)

2022-05-03

#### 上越 阿能川岳～小出俣山

5/3: 地元サークルの残雪山行に参加した。GW 真ただだ中に出発したので、高速渋滞につかまり、8時到着予定が昼になってしまった。登山口は新緑となり、たらの芽が開きだした姿が見受けられる。登るにつれてシャクナゲ、こぶしの花が咲だしている。しっかりした道も1,150mの鉄塔までで、ここから藪漕ぎが始まる、ルートは阿野川岳まで一直線である。でも尾根伝いなのとペナントが所々に有り迷うことはない。標高1,300mを過ぎると残雪の塊が出てきたので、予定では阿野川岳までの予定だったが16時頃となり、本日の設営とする。早速ビールとワイン、日本酒で乾杯して20時過ぎ就寝。

5/4: 今日長時間行動になるので早めに出発する。三岩岳までは狭い尾根の優しい藪漕ぎだがアップダウンの連続で雪がなく時間を食う、最後が三つの岩場を右から巻いて三岩岳に着く。眼前に右から天神尾根～谷川岳～万太郎山～仙ノ倉山～平標山。そしてこれから登る阿野川岳～小出俣山の雪稜が望める。なだらかな登りが30分で阿能川岳に着く。5時間の設定だが7時間要した。樹林帯を少し下り残雪の尾根を小出俣山に向かう。快晴無風で暑い。上半身は下着一枚である。大きな雪庇は無いが1か所、口

を開いた雪壁は右から登った。所々藪漕ぎをして3時間で小出俣山山頂に着いた。日光、上越、谷川連峰南面の俎嵯山稜、越後の山々の大展望だ。これが春山で気持ち良い。下りはオゼノ尾根をルートにする。経験者の関村さんをトップにヤマップとペナントを確認しながらほぼ一直線の尾根を降りると千曲平(せんげんだいら)に着く。小出俣沢林道を川古温泉駐車場ゲートまで一時間歩き、一人がさらに1時間25分歩き車を回収して仏岩温泉で汗を流し夕食して24時前に千葉ニュータウンに着いた。残雪の春山、藪漕ぎ初体験の方お疲れさまでした。

(山口、他3名)



2022-05-03

#### 近畿 伊吹山

伊吹山 上平寺越え～東尾根～弥高尾根を周回しました。大垣山岳協会の方の山行記録を拝見しこのルートを選択。事前に林道川谷戸林道のことをメールで問い合わせたものの返信はありませんでした。しかし、取付き点に着くと沢山の新しい赤テープがつけられていました。たぶん私のために着けていただいたのかと思いました。サプライズでしたが感謝。登りだすと山行記録の通りの急登で基本3点支持で登ります。久しぶりに緊張して登っていきました。あっちな？と見ると真新しい赤テープ！！こっちな？と歩いていくと赤テープ。山頂は賑わっていて、あれが白山だよとの会話！！どれだろうとみるもわからず。琵琶湖は良く見えました。下山の起点がわからず地図とにらめっこ。おおよそのルートを下っていくとやっぱりありました赤テープ。



急斜面と細尾根を歩いて弥高山から上平寺の駐車場へ無事下山することが出来ました。振り替えればお世話になった赤テープ！感謝！今日は最高の一日でした。メインルートと山頂はものすごい人でしたが、このルートは誰とも会いませんでした。（黒澤）

2022-05-04

#### 足尾 仁田元沢～（庚申山）～ 石塔尾根

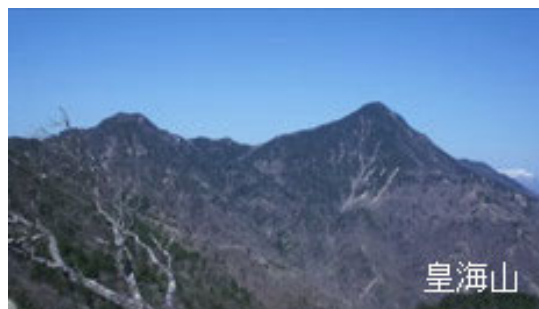
行きはわたらせ渓谷鉄道に乗り間藤駅下車 11 時前には歩き始めました。入渓点まではいくつか堰堤を超えます。幕営地には 16 時頃到着し薪で暖を取り満天の星空の下焼酎のお湯割りをすすりました。翌朝は 5 時前には出発し、9 時頃に稜線に抜けました。沢は易しく明るくザイルを必要とするところはありませんでした。詰めは風のそよぐ笹原で雪が残っていました。下山路の石塔尾根は僅かな踏み跡と赤テープを探しながら進みます。所々精錬所の煙で真っ黒に焼けた荒々しい岩肌が眼下に広がります。中倉山が近づいてくると道ははっきりしてきますが長く急でザレた歩きにくい道となります。同親水公園 16:30 頃着。帰りは狭いコミュニティバスで日光まで行きました。新緑の中清々しい楽しい山行でした。

（木戸）

東武電車を乗り継ぎわたらせ渓谷鉄道「旧国鉄 足尾線」で終点「間藤」へ、銅親水公園へは足尾の空家、旧工場跡を横目に歩く、お墓が目立つ。松木沢林道を途中で、仁田元沢林道を進み、中倉山入口を過ぎさらに林道を行く。相当崩壊しているが問題ない、堰堤をいくつかパスし、入渓する。間もなく空中から落ちる水飛沫滝を通る。随所の滝は巻道も明瞭、一箇所巻過ぎたが、兩岸を選びながら歩き 15 時となる。16 時には幕場を決める感じで先を急ぐ、ほぼ予定時刻に一段高い適地を選び、テント設営、焚火も苦勞なく燃え上がった。今回もスパゲッティ 3 回連続の気がする。夜は冷え込みなく、3 時半に起き、焚火で「ラーメン」5 時に歩きだす。庚申山に 8 時に着けばいいのだが。二俣までは一時間程、その先は兩岸の熊笹帯にある「獣道」を結びながら上流へ高差の

ある滝も巻きは楽だ、途中「石塔尾根」にエスケープ出来そうな支沢はあるが、パスし上流へ行くと雪渓。歩き易いがよく滑る。ほどなく沢は雪渓に埋まり熊笹を分けて尾根に出た。そこは庚申山へのコルに至近である。ここで「協議」のうえ、楽な？石塔尾根を選択する。しかし「オロ山」「沢入山」付近の登降、ルート不明瞭で時間を使う。「中倉山」までも長い。林道に下り立つ頃には 14 時になってしまった。庚申山～銀山平にすべきであった。林道も、公園から間藤へは長い。途中「赤倉」バス停で時刻表をみるとなんと 7 分後に、東武日光行きがあるではないか？、超ラッキーというか灼熱道路でもう「へろへろ」、神は我々を見捨てなかった。バスは定刻、2 人を乗せて日光へ。

（木戸、伊藤）



2022-05-04

#### 外秩父 堂平山

GWは雪山の大規模山行を例年計画しているが今年は諸事情のため中止に。一日ぐらいと思い近所の里山を散歩。外秩父縦走路の堂平山に登る。山頂には天文台とキャンプ場が。こういう山行もいいものだ！

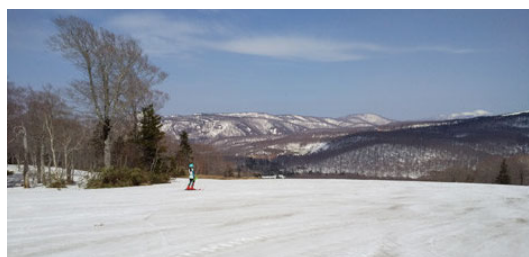
（吉田、他 1 名）

2022-05-05

#### 秋田 八幡平スキー場

今シーズン最終の営業と云う事で、十和田八幡平国立公園内の八幡平スキー場に出掛けました。天候は曇りがちでしたが、鯉のぼりの吹き流しに導かれ、愛車を走らせました。今年は豪雪でしたが、雪解けも早くグレンデは一部草が出ている状況でしたが十分に楽しむことが出来ました。連休中の事もありコースは各スキークラブのメンバーでそこそこの賑わいでした。八幡平は山ス

キーの人気山域で、いつかは頂上から滑りたいなーと思いつつ、左正面に見える焼山に古い想いを馳せさせました。中学生時代に玉川温泉から蒸ノ湯温泉までもうせん峠を越え縦走したよき思い出の山です。食堂のおすすめメニューの味噌チャーシュー麺と1杯200円のコーヒーで休憩を取り、15時にスキー場を後にしました。駐車場の車を見ると、地元半分、首都圏半分のようです。沿道の村々では春の盛りで、みんな忙しそうに働いていて、それにしても、今年の雪は半端じゃなくて軒が折れている家屋がいたる所にあり、自然の猛威にはただ敬服するしかありません。秋田は日中は30度を超える猛暑の日もありましたが、朝、夕は過ごしやすく、正に爽やかを絵に描いたようなところでした。写真、雉がいます、さて何処でしょうか。(伊藤 源)



2022-05-08

#### 栃木 唐沢山

最寄り駅より歩く、気温上昇気味のようだ。神社で小休後、ポーと考えながら林道～登山道へ、先日の「足尾」山行での足の疲れか、歩は進まない、唐沢神社では幾分参拝客も増えている。その分「野良猫？」は少ない。いつもの送電塔下のベンチで休憩、ハイカーさんも増えた感じだ。この先すぐ、3パーティーと相次いで会う。京路戸峠を通り、多田駅まで歩き、午後から仕事とあいなった。(伊藤)

2022-05-21

#### 奥多摩 大塚山～日の出山～金毘羅尾根～武蔵五日市

最寄りに着くと小雨状態、「これじゃ沢はヤメ！」ハイキングに切り替える。対岸の吉野街道を少し歩き、大塚山への登山口で小休、ジグザグ道を行くと林道に出てまた小

休、小雨だが森林帯なので、問題ないと思ったら雨足が強くなり、傘をさして先を急ぐ、ケーブル道と合流し大塚山の避難小屋で大休、後大塚山から御岳の旅館街をすり抜け日の出山方面へ多少ハイカーとすれ違う、日の出山近辺で道が縦横にあり少々迷うが、金毘羅尾根、麻生山を過ぎ金毘羅神社で小休後、傘をさしつつ五日市街へ、途中ビールをのみ駅に向かう。(黒澤、他1名)

2022-05-22

#### 白神山地 白神岳

世界遺産の白神山地は青森県、秋田県に跨がる広大な山地で有るが最高峰は向白神岳だが少し高い。それでも1,200m級である。ヘッドランプ必要無しの時間に歩き出す。標高300mからなだらかな登りから間もなく植林のないブナの原生林が続く。分岐から急登になり標高800m付近から尾根の西面に残雪がびっしりと現れる。1,100mで白神岳が現れ急な登山道を登ると左の十二湖からの道にぶつかる。10分で山頂到着。360度の眺望で1,000mを越える山は雪がびっしりである。眼下には「秋田名物八森ハタハタメ……」で有名な日本海の八森海岸が延々と続く。下りはまたブナのグリーンシャワーを浴びながら計画より一時間早く下山出来た。八森のハタハタ館ではハタハタの一尾寿司、ヤリイカの寿司、イカ焼き等をたらふく食べてきた。(山口)



2022-05-23

#### 甲斐駒ヶ岳 黒戸尾根

4月の八ヶ岳に続き、甲斐駒ヶ岳にトレニング山行に出かけた。標高差2,200mの甲斐駒ヶ岳の黒戸尾根は「日本三大急登」の一つといわれ1816年に小尾権三郎によつ

て開山されたという。

5/23、自宅を零時に車で出発し、中央自動車道の双葉 SA で仮眠を取り、周りが白むころコンビニで買い物をして駐車場に向かった。登山口にある北杜市の尾白川溪谷駐車場は、平日とあって駐車台数は数台程度でしかない。身支度をして午前 6 時 20 分に登山を開始する。すぐ先にある、今から約 270 年前に駒ヶ岳講信者が建立したとされている甲斐駒ヶ岳神社に立ち寄り安全登山を祈願する。尾白川溪谷の吊り橋を渡り対岸の登山道から登り始める。しばらくは、落ち葉がジュタン化したフワフワの登山道を登っていく。笹ノ平付近の樹林帯は、一面クマザサに覆われている。笹ノ平分岐点は、竹宇と横手の二つの登山口の合流(分岐)点である。続く急な登りは八丁登りである。前屏風ノ頭を過ぎると尾根は、次第に細くなり岩稜の刃渡りに着く。刃渡りは、鎖の手摺が付けられているので危なくはない。刃利天狗は木曾御嶽山の三笠山に住んでいる天狗として民話に登場している。黒戸山の樹林帯を大きく右に巻くと鞍部にある五合目小屋跡に着く。小屋跡から尾白川の千丈の滝に通じる登山道がある。以前、黄連谷右俣を登るため通ったことがある。鞍部にある屏風岩の右側を登る。梯子と鎖が取り付けられている急な登りがしばらく続く。この日は無風快晴であり T シャツ 1 枚で歩くことができた。午後 1 時 25 分に七合目(標高約 2,400m)にある三角屋根が特徴な七丈小屋に到着する。

5/24、翌朝は、朝食を済ませ、ヘッドランプを付けて、午前 4 時に小屋を出発する。4 時 35 分が日の出時刻なので、もう少しすると周囲は明るくなり始める。幕(テント)場は、その小屋の上方に 2 つある。小屋に近いほうには 2 つのテントが張られていた。ダケカンバの林を抜けると森林限界になる。八合目の御来迎場には、昔は大鳥居があったが崩れてしまい今はない。烏帽子岩には二本剣があり、この脇を通過する。このルート of 険悪な核心部は、八合目から九合目の間といわれている。大きな岩の合間を慎重に登る。午前 6 時 35 分、甲斐駒ヶ岳山頂

(標高 2,967m) に到着する。日本百名山の一つである甲斐駒ヶ岳は、南アルプスでも珍しいとされている白い花崗岩の山であり、南アルプスでは、ここと隣の鳳凰山だけらしい。無風快晴で、気持ちのよい眺めである。残雪に白く輝かせている鳳凰三山、白峰三山や仙丈ヶ岳、八ヶ岳が間近に見える。また、遠くに中央、北アルプスなどの山々も見ることができる。頂上には、二人の登山者がいた。その一人に写真を撮ってもらう。風景写真をとって 20 分後に下山を開始した。八合目御来迎場から数十メートルの残雪の下りは、滑り止めにチェーンスパイクを使用した。ひたすら、長い長い尾根を下り午後 3 時前に駐車場に着いた。駐車場の近くの「尾白の湯」に立ち寄り、汗を流してから帰玉した。この時期の登山道には、少し雪が残っているだけなので、アイゼンとピッケルは持たず、チェーンスパイクとストック(アルパインポール)で対処した。また、花崗岩の岩肌は、風化してザラザラしているので、革製の手袋を着用した。(塚田)



2022-05-24

新潟 佐渡ヶ島 最高峰 金北山 (1,172m)

計画では新保ダムから登る予定だったが道が車では狭いので軟弱な妙見山ルートに変更する。駐車場からすぐ登山道に入る。道脇には赤や白いイワカガミが沢山咲いている。密生してる樹林は(おしん林)と標識がある。30 分も登ると妙見山に到着。右手先には金北山の山頂が見える。自衛隊専用道路をそのまま進みトラブルになり登山口まで戻りまた登り始めた。二時間のロス。登山ルートから登り始めなんなく頂上についた。左から飯豊連峰、守門岳、八海山、谷川岳、妙高山そして遠くに北アルプスが見えた。下には佐渡の 2 つの海岸が見える。快晴の

中、下山した。

( 山口 )



2022-05-28

### 秩父 二子山

何年ぶりだろう、(前回は2018.11) 友達を誘って二子山に行きました。その時と同じルートを歩いたもののイメージが違う気がした今回の山行でした。

今回は友達と二人で行こうと思っていましたが、他会員が行ってくれるということになり、また、前夜先輩に電話をして急遽参加していただくことになりました。坂本(下の登山口)からの予定でしたが、先輩さんから上の駐車場まで行くのか?ことでしたので、その方が楽だと思いそちらに変更してもらいました。例の駐車場までかなり登りましたので、楽をさせてもらい歩いた距離は何と2Kmに満たないという状況でした。西岳は前回登っていましたが、東岳は今回初めてでした。しかし、分岐やクライマーを見たことは覚えていたましたが、西岳のことは垂直の岩を登ったと思っていたもののそんなところは全くなく普通の斜面だけでした。大塚山しかり全く覚えていない今日この頃です。朝霧にお世話になっていることも忘れてしまいそうです。

(吉田、黒澤、他2名)

2022-05-29

### 加賀白山 越前三ノ峰～別山 (2399m)

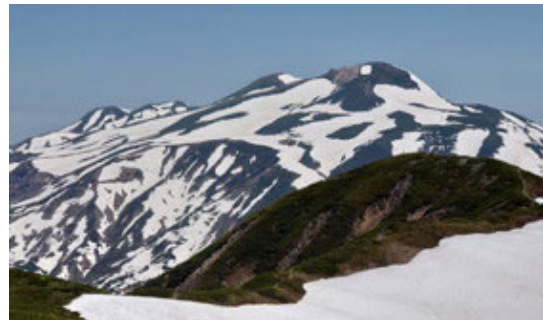
2時すぎには起きてた。満天の星空で無風。駐車場から少し下り林道を15分位歩くと登山道の分岐。六本檜迄は急登の樹林帯だが我慢の登り。六本檜から小一時間、緩やかな登りの樹林帯だが突然、視界が広がり急登の一本尾根が延びている。三ノ峰の避難小屋に着き、少し熊笹の道を進むと福井県最高峰の三ノ峰だ。しかし誰も降りない。皆、別山を往復するようだ。一旦下ってまた延々と登り。夏日の陽気でバテバテで別山

に着いた。ここから白山方面は雪がびっしり残っている。風が冷たい。白山は御前峰、剣ヶ峰、白山、大汝峰と室堂平が望める。下り始めたが後から後から登山者が上がってくる。結局ニピッチ(2時間)で降りた。駐車場には30台位停まっていた。やはりいい山は人気もある。(山口)

### 京都府最高峰 皆子山 (972m)

バス停から橋を渡り、墓地の横の杉林の急坂を登る。急坂を登ると緩やかな登りとなる。過ぎの落ち葉クッションが仲々良い。空身同然だと楽だ。一箇所だけ琵琶湖が見えたが他は展望が無かった。登山者は4パーティーいた。下山して彦根城に向かった。

(山口)



2022-05-31

### 都岳連 第10回通常総会

都岳連総会が5月31日、国立青少年オリンピックセンターで実に3年ぶりに行われた。(リモートは別)出席者は大方スタッフさんがしめ、各山岳会代表者もこんなに少ない人数は初めてだろう。状況が状況だからいたしかたない。会長も亀山さんから松本 敏氏にかわり任期も後1年とのこと、3年間の行事ほぼ中止でそれはそれなりに大変な苦労だったようだ。(事前準備があるので)、また加盟団体も個人会員も少しずつ減少傾向にあり歯止が効かないのが実情だ、なお公益法人収支として各コロナ給付金(380万)で数字的にはなんとかなったようだ。

※ 国立青少年オリンピックセンターで岳連総会や各研究会など出席してきた。その間に「山岳」は大きく変化、スポーツクライ

ミング、トレイルランニング部門が失礼と思うがあ頭の堅いと思った岳連に加わった。昔ながらの我々が思っている「山岳」では理解できないことが現状起きている。このまま現状に甘んじていると間違いなく衰退のみである。新しい志向を今一度模索しなくてはいけない。（伊藤 守）

6月

2022-06-01

兵庫県最高峰 氷ノ山（ひょうのせん）  
（1509m）

夜明けと同時にスタート。予定では仙谷ルートであったが、GWにバカ高校生が残雪で滑落事故起こしたので通行禁止になったようだ。どうせなら長いルートに変更する。スキー場を登り三ノ丸方向に行ったのだが、思い込み間違いで20分タイムロスする。樹林帯を斜めに登り、スキー場沿いの踏み跡の傾斜のキツイこと。間もなくルートの傾斜も落ち三ノ丸手前からはほんの少しの傾斜の登山道である。残念ながらアタマ超えの竹藪で視界ゼロ。頂上でようやく視界良好だが山の名前が全くわからない。早々と下山に入る。下山ルートは氷ノ山越ルート。ブナの原生林から杉林を下るとキャンプ場に到着20分で駐車場に戻った。登山者は全てこのルートに登っていた。全体的に標識は多すぎる位あり、人気の程が伺えた。（山口）



2022-06-02

中国山地 岡山県最高峰 後山（うしろやま）  
（1345m）

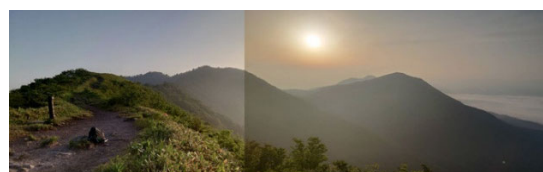
昨日の明るいうちに、下の国道から苦勞してたどり着いた。キャンプ場とは名ばかりで「熊出没注意」の看板ばかり。道もガー

ドレール無しでこれではキャンプにならない。夜明けと同時に出発。沢沿いの杉林の中を登る。途中2か所に昭和の名残りの炭焼き釜があった。海拔1050mでの炭焼きの工程、運搬の大変さは皆さん分からないでしょう。全体的に暗いコースだ。少ない荷物なので2時間10分で頂上に着く。昨日登った氷ノ山が望める。他の山は分からない。下りは一時間ちょっと出降りた。（山口）

2022-06-03

蒜山（ひるぜん）高原 蒜山三座縦走

朝3時の標高500mの蒜山高原は12°Cと暖かあたたかい。4時前に出発する。前日に登山口方面まで偵察しておいたので迷うことはないが牧場周りは電線が張り巡らせてあるので気持ち悪い。樹林帯に入ると急登になるが1ピッチで500m稼いだ。この一週間登りこんでいるので身体が軽い。下の高原は雲海になっていて幻想的だ。間もなく最終のピーク上蒜山に着くが三角点は左方向にあるので往復した。ここから縦走になるが上蒜山からの鎖場は傾斜が緩いので前向きで降りられる。中蒜山迄はあっという間に着いた。少し雲が出てきたので大山は見えなくなった。下蒜山迄は少し長いが気持ちの良い登山道が続く。頂上から下ってまもなく「アサギマダラ」数羽現れ数年ぶりでシャッターを押した。下蒜山登山口に到着してタクシーで上蒜山登山口に戻り温泉で汗を流し登山を終えた。（山口）

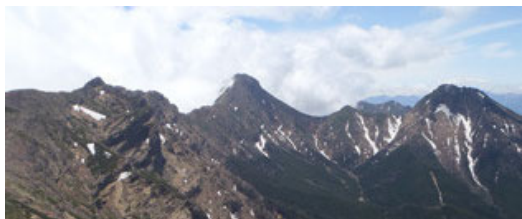


2022-06-04

八ヶ岳 赤岳周回

梅雨入り前最後のウィークエンド。丹沢源次郎沢に行こうと準備していたところ、山友が南八ヶ岳赤岳周回をするという。以前、同じルートを周回していますが、雲の中を歩いただけでしたので、急遽連れてってもらうことにしました。山友は歩くのが

とても早く休み時間も少ないので、ところどころお願いして何とか着いていくことができました。今回は、快晴で雲の上に頭を出した富士山、南アルプス、中央アルプス、北アルプスなどなど、南八ヶ岳を堪能することができました。山友は夏沢峠に行きたいと言っていましたが、計画書外でしたので、勘弁してもらい予定通りの縦走で終了しました。途中歩いていても足に力が入らない時（後で先輩に教えていただいたのが水分不足では、とのことでした。）がありました。このところ長距離を歩いていましたので、下山後も比較的ゆとりの山行でした。下山後もみの湯で疲れた身体をほぐして帰路に着きました。以前はおおよそ 12 時間、



今回はおおよそ 9 時間半内休憩時間 1 時間 40 分。 (黒澤、他 1 名)

2022-06-07

山口県最高峰 寂地山(1,346m)

夜中に起きた時は星が見えてたのに朝は霧雨である。早めに出発する。コースは寂地峡に沿ってるが轟音の切り立った滝の連続である。コンクリートの道、階段で両側は鉄パイプの手摺と鉄骨の橋である。橋は沢の最後まであり渡渉は無い。ここまで観光客、ハイカーに配慮して整備した県は素晴らしい。山の上部はカタクリの群生地が有名で 4 月は人が多いそうだが頂上からの視界はゼロなのが残念。頂上からは林道コースを降り周回登山となった。 (山口)

2022-06-07

中国山地 島根-広島県最高峰 恐羅漢山(1,346m)

スキー場から真っ直ぐ登り、樹林帯に入り一時間で見晴らしの無い頂上に着く。他の登山者とお喋りして、フルーツを貰い一時を過ごしてから下山した。 (山口)

2022-06-09

中国山地 剣山(1,955m)～高知県最高峰 三嶺(1,894m)

夜中から星空だった。ご来光に合わせて見ノ越(1,400m)を 03:20 分に出る。1,600m から森林限界となり東が紅くなりだしてる。頂上に近くなりウッドデッキには人が並んでる。04:42 ご来光に到着間に合った。気温 6°C で神ごうしい。いよいよ縦走が始まる。次の次郎笈も 1,900m だが特徴はミヤマクマザサと言う長さ十数センチのクマザサ帯を歩く。よく剣山縦走で出てくる景色だ。その後は 1,600.1,700 級のアップダウンが幾度と続いて最後にドーンと三嶺が立ちほだかる。ここもクマザサ帯だが良く見ないと降り口が分からない。ガレ場から緩傾斜の水草のない尾根を 2 時間歩いて懐かし名頃に着いた。タクシー相乗りで見ノ越に戻った。山口さんからの写真です。四国、剣山～三嶺下山しました。剣山は徳島県、三嶺は高知県最高峰です。 (山口)

2022-06-10

阿波 讃岐山地 竜王山(1,059m)

公園からすぐ歩きやすい登山道になり汗が流れ出したら香川県最高峰、竜王山でガクンと大下りしてまた登ると高知県最高峰、竜王山でどちらも視界はゼロ。阿波竜王山の方は人工構築展望台があるが剣山の方は見えない。残念だがこれでは人気でないね。 (山口)

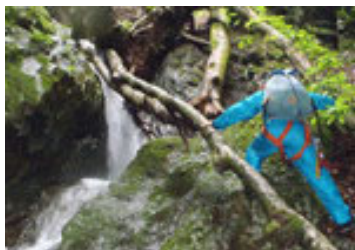
2022-06-11

丹沢 水無川 源次郎沢

先週行く予定だった源次郎沢 今週に延期して行ってきました。天候不順予想でどうなることか不安でしたが予定通り 3 名が大倉に集合。先輩から戸沢まで車で行こうか？と言っていたものの、長い林道を歩き入渓地点に着きました。準備をしていると、アッ、ヒル！！が靴にどんどん登ってくる。こんな事がありながらも久しぶりの沢！！水量も多いのでのんびり歩いて F6 の手前で休憩。天候も怪しくなってきたため早めに撤退。天神尾根と大倉尾根の分

岐あたりに出て帰路に着きました。久しぶりの沢歩き。今回はヒル！！がないところを歩きたいと思った沢歩きでした。

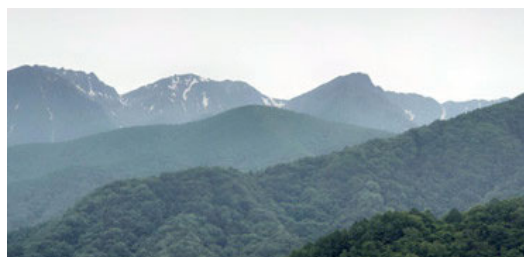
(吉田、黒澤、他1名)



2022-06-18

上伊那山地 傘山 (からかさやま 1,542m)

傘山は伊那谷を挟んで陣馬形山と対峙して双壁をなす上伊那の里山である。町が標高 500m.車で 8km 先の町民の森まで 20 分で 1,064m ある。標高差 480m なので 1 時間 15 分で着いてしまった。蒸し暑くて汗びっしょりだった。天気は曇りだが 5 月に登った陣馬形山、その奥の南アルプスの白鳳三山、反対側は中央アルプスの空木岳、仙漕嶺が眼前に聳えている。登山者も 10 人いた。地元クラブの人がお揃いと T シャツ来て傘山のバッチ、木札を全員に配っていた。下山した後は車で中央アルプスの烏帽子岳登山口迄を偵察した。(山口)



2022-06-18

奥秩父 甲武信ヶ岳

友達が車で甲武信ヶ岳に行くということで連れて行ってもらった。道の駅みとみを過ぎて無料駐車場に 1 時頃到着。すでに車が止まっている。朝になるとさらに増えていた。西沢溪谷から徳ちゃん新道までなだらかな道を進み手前のトイレで準備。満開の石楠花のフラワーロードを期待したが時期がずれていたよう。開けた眺望もなく分岐、木賊山と進むとあと少し。やっと甲武信ヶ

が姿を現した。ずいぶん大きく高く見えて登り返しが大変そうに見えたがそれほどでもなかった。甲武信小屋には寄らずに山頂に着くと 20~30 名程度のハイカーが。標識をよく見ると、大だるみ峠や国師が岳の標識が。さらに埼玉県最高峰三宝山の標識も。そちらの方から登ってくるハイカーも意外に多い。曇り空の中、南アルプス、八ヶ岳の山々が見えたものの、先日の八ヶ岳と比べるとおとなしいものだった。下山後、はやぶさ温泉に寄って疲れた身体を癒して帰路に就いた。(黒澤、他1名)

2022-06-19

中央アルプス 烏帽子岳(2,194m)~池ノ平(2,327m)

前日の里山でつまんなくなり懐かしい烏帽子岳に行く事にした、烏帽子岳は中央アルプスの主稜線にある奥念丈岳から派生する尾根上にある。前日、街道の登山口、5km 先の鳩打峠駐車場と偵察してあったので早朝の暗いうちでも迷う事は無かった。天気はイマイチだが蒸し暑い。T シャツで充分である。1ピッチで小八郎岳に着いた。眼前に広がる八ヶ岳、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、白鳳三山から茶臼岳迄の南アルプス、伊那谷、天竜川が素晴らしい。登山道の整備も素晴らしく地点の表示が細かく表示されている。烏帽子岩の上りは直登を選んだ。下部、上部共 30m 位の岩場でグレードは II 級+位で小気味良い。頂上からは空木岳からの稜線が素晴らしい。予定では烏帽子岳までだったが時間があるので池ノ平まで延ばす事にした。標高 2,000m 過ぎてても大木があって視界は無い、池ノ平もクマザサで視界悪いが 2,300m まで来たのだから良しとする。時間と共に雲が下がって来て、朝早く登って良かった。やはり 2,000m 越え山は大きくて良いね。(山口)

2022-06-25

丹沢 同角山稜~同角 尾根周回

丹沢の同角山稜一同角尾根周回に行きましたが、玄倉バス停から何とか尾根に取り付くも蛭の襲撃に。少し登っては蛭の処理、バキュームで傷口を吸い毒を出して、傷口

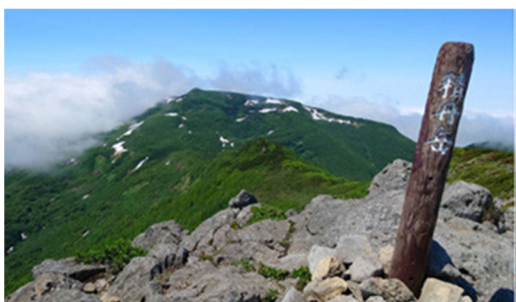
の手当。医者から貰って置いた抗生物質を飲み痒みを止める。少し開けた尾根に上がるもいっこうに蛭の襲撃は止まらず、話し合いの末、下山を決断する。この時期このルートは近づけない。ちなみに西丹沢のビジターセンターには多くの登山者が向かっていった。(黒澤、梶、他1名)

2022-06-27

北海道 積丹半島 積丹岳(1,255m)

前日の林地登山口偵察で確認した所から出発する。15分で登山口小屋に着き記帳する。北海道の小屋はどこも立派だ。ここも畳敷きで中央にストーブが鎮座している。登山道はよく整備されている。合目の印もしっかりしている。先輩と「根曲がり竹」採りに夢中になる。親指台で2.30本採取する。頂上直下まで視界がなく、頂上に飛び出すと積丹ブルーで美国湾も見渡せる。稜線はまだ残雪があるので吹く風が心地よい。下山は特に問題なく駐車場所に着いた。

(吉田、山口)



2022-06-28

北海道 増毛山地 暑寒別岳(1,492m)

天気予報では夕方から大雨予報だったので午前中で登ろうと思っていた。朝起きると雲が低い。登山口まで行ってみようと車で出た。登山口には3台が停まっていた。すぐ登山スイッチが入る。登り出した途端藪蚊の襲来。稜線まで苦しめられた。登山道では視界がないのでまた根曲がり竹採取する。滝見台で残雪の暑寒別岳が姿を表す。やはり北海道の山だ。ここから一直線の急登になる。稜線にでると展望と高山植物の花がどんどん出てくる。増毛湾も見下ろせる。北海道の山を満喫して下山に入る。雨雲がくる前におりれて良かった。(山口)

7月

2022-07-03

北海道 日高山脈 アポイ岳(810,2m)

石狩山地、夕張山地を登るまで日数が空くので足慣しに山行予定に入れ、根室～襟裳岬と走り海岸から車で5分の登山口駐車場で前泊した。下は晴れてるが山頂付近はガスってる。登山道はじめじめしたなだらかな樹林帯を登り五合目の尾根に上がると展望が広がる。急な岩混じりの尾根を上がると馬の背に着く。この先は濃霧になり少しの急登であっけなく山頂に着いた。下山では日曜日とあってどどん人人とすれ違い登山口まで74名までいた。筑波山みたいな山だった。(山口)

2022-07-04

北海道 夕張山地 夕張岳(1,667.7m)

7/3 アポイ岳を出たが北海道に来て一週間。連日の疲れで睡魔が出て休息しながらの運転になる。懸念してたゲートまでは9kmの砂利道知床のパンクがよぎる。また路肩崩れ、見上げるは20cmの逆層、長さ50mの断面で恐ろしい。どっちが崩れても半年は車回収は覚悟、しなくてはならない。明るいうちにゲートに着いた。3台が停まっていた。

7/4 昨日から天気予報で盛んに午後から雷雨、豪雨予報放送があったので早出する。林道～夕張ヒュッテ～急な泥濘んだ登山道を進む。朝露があるので下だけ雨具を着るが気温が高く汗びっしょりである。冷水コースに合流して急登すると展望台に着く。左に芦別岳、前方遠くに夕張岳が姿を表す。傾斜が落ち木道に入ると湿原になり高山植物のオンパレードでエゾハクサンイチゲ、ユウバリアズマギク、ハクサンチドリ等など10種類以上で晴れてることもあって最高の気分になる。頂上直下の鳥居を過ぎた処ガスが来てしまった。頂上では5分違いで残念。大展望が望めなかった。下山して15分位して振り返るとガスは無かったが残念。下からはツアー2組合せて40数人とすれ違う人気の程が伺える。予定よりも1時間半早く下山出来た。満足な山行だった。



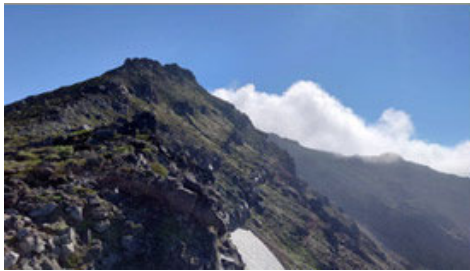
( 山口 )

2022-07-06

北海道 夕張山地 芦別岳(1,726m)

バースデー山行はくしくも北海道のマスターホルンと呼ばれる芦別岳に巡り会えた。熊止めの扉を開け登山開始。昨日の雨で泥濘んだ道を汗ビッシヨリになりながら登る。鶯谷から急登になり、湿地帯からまた登りとなる。頂上はガスってるので見えない。最後の岩場を登ると頂上に着いた。西側が切れ落ちてるのが分かる。他はなにがしも見えないので下山する。最近のペースは登り60分、10分休息、下り90分の配分をしている。登山者は9パーティすれ違った。視界がないと楽しくない。曇り 20℃ 湿度高し

( 山口 )



2022-07-09

北海道 島牧村 狩場山(1,520m)

道の駅「よつてけ島牧」で吉田先輩と二回目の合流となる。前回は6月26日であったが登山口で小雨だったので中止した。島牧村出身の吉田先輩にとってまさしく「故郷の山」「裏山」である。小さい時、熊出没が激しく母親から止められてから、どうしても登りたい山なのだ。2台の車で登山口に向う。林道は何処までもアスファルトだ。前回引き返しした所から3km程手前で道路に残雪がかぶさっている所の路肩に車を停める。虫がうるさいので焚き火をしながら軽く一杯して夕食して明るいうちに横になった。北海道に来て初めての満点の星空である。北海道な来て二週間ちょっとの経験から、昼を境にどうしてもガスが発生しやすいので朝は早い時間に出発する。熊対策として鈴3個と絶え間のないホイッスルだ。1200mを過ぎると残雪が現れるがキックステップで気にしない。熊の糞も見た。やがてなだらかな山容になり、残雪有り池塘にはオタマジャクシがいて、海が見えて穏やかである。頂上ではゆっくりしていたがやはりガスがでて来たので下山することにする。3パーティとすれ違った。熊に逢わなくて良かった。(吉田、山口)

2022-07-07

北海道 十勝岳連峰 美瑛岳～十勝岳

北海道に登山に来てるが高さ 1,900m 未満、展望に欠ける、天候不順で山がジメジメしている。どこかスカッとした山に登りたい。との事で美瑛岳～十勝岳周回登山に決めた。

気合を入れて3時25分に出る。気温7℃だがガスってる。一時間半も歩くと雲海の上に出る。雲ノ平からエゾコザクラなど咲きほこっている。雪渓が2箇所、渡渉と飽きさせない。美瑛岳は岩稜の先にあるが険しい。ガスの切れ間から見える山稜は木が一本無い。有るのは草と高山植物だけ。北アルプスの3000mを歩いているみたいで気持ちが良い。なだらかな処はカウベル付きのひつじを上げればチロルの世界だ。残雪もあるので風も心地よい。会員も東京近郊ばかりでなく、このような山も登って欲しい。十勝岳は3回目だがやっぱり雄大で素晴らしい山だ。

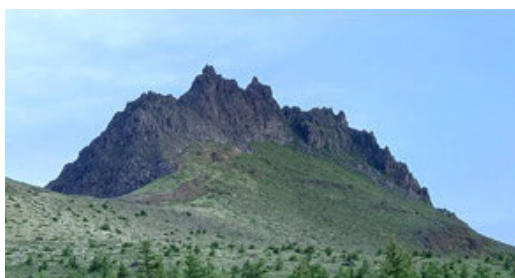
( 山口 )

2022-07-10

道南 函館 駒ヶ岳 (1,000m) 剣ヶ峰

雨の予報が覆り降らなそうなので慌てて出発する。吉田先輩が「駒ヶ岳に行きたい」と言った時、「900mまで1時間チョイの歩きの山がどうして？」と思ったが駒ヶ岳の

剣ヶ峰が姿を表した時、「これは?」と思った。山屋なら見ただけで熱くなってしまう。槍の穂先がカールして見えた。馬の背に上がると周囲全てロープが張られてある。「行くな!」と言う事なのだろう。ひとつ先のピークまで行く事にした。ガスの匂いがする少し先に幅最大 1m 深さ 3m?以上?底が見えない。長さは 50m 位。柵もないので確保して見ないと不気味だ。これがロープの意味だ。丸山から先はトレースがあるが岩場が読めない。吉田先輩に「丸山から上に上がらない」と約束したので下山に入る。霧雨も降ってきたので言い訳になる。こうして北海道の登山は終わった。(山口、吉田)



8 月

2022-08-03

富士山 (吉田ルート)

例年実施している富士登山で今年は少し変化を付けるため、好日山荘瑞穂店の「高所順応(低酸素)トレーニング」を試してみた。結果は、その効果を得るためには 3 回目のトレーニングから 1 週間以内の登山が望ましいが、天候を見計らっているうちに 3 週間が経ってしまった。このためかタイム的には昨年とほぼ同じになり、その効果を見極めることができなかった。また、緊急連絡対応者に YAMAP の「みまもり機能」を試してみた。対応者からは、登山者の位置情報が概ねリアルタイムで確認できるので有事の際も有効に使えるのではないかと好評だった。・・・昨年と同様に谷村パーキングエリアで仮眠をとり富士吉田の馬返しに駐車して、暗い中 3 時 30 分に登山を開始する。駐車場は平日であり車は 3 台程だった。天気は晴れ。登山日和である。佐藤小屋では、賑やかな登山者が出発の準備をしている。眺望のよい経ヶ岳で休憩する。六合目の安

全指導センターで「体温・体調確認済み」リストバンドをザックに着けてもらう。コロナ禍とあって以前より登山者は少ないように感じる。順調に高度を稼いでいくが、標高 3,400m を超えると足の進み具合が鈍くなってくる。14 時 30 分に吉田口山頂(3,710m)に到着、久須志神社前の広場で休憩する。山頂からは河口湖、山中湖、御坂山塊、道志山塊が眼下となる。毎度お鉢めぐりを予定するが吉田口山頂に到着しただけで満足してしまい、今回もお鉢めぐりを省略してしまう。吉田下山専用道を下る。ここはブルドーザー用の道路でもあり砂礫の幅広い道である。単調ではあるが安全な下山ができる。下山道は砂埃が舞い上がるためウレタンマスクを着け、また、靴の中に砂礫が入るので夏用スパッツを着けた。これで下山中は一度も靴の中の小石を取り除く必要がなく快適であった。佐藤小屋に約 18 時、駐車場には 21 時 15 分に着いた。車中で仮眠をとり翌朝に帰宅した。(塚田)

2022-08-05

岩手県 岩手山

雨続きで、晴れ予想の日を狙って 8 月 5 日(金) 5 時に秋田県大館市の古民家を愛車 TANK で出発。馬返し登山口で朝食を採り、柳沢登山道に入る。登山口は大駐車場、トイレ、水場完備の清潔な場所で、登山道はここ数日の大雨でかなり荒れていましたが、ひたすら登りなので慎重に高度を稼ぐ平日の所為か登山者は若い人のグループか、熟年の単独登山者が主流のようです。避難小屋には 3 時間半程で着き広場の清水で生き返りました。これからは展望も良く、開けた登山道です。とにかく青空に向かって歩を進め、二重火山の外輪山で 360 度の景色を眺めて、手作りの昼食を楽しんで 40 分程掛けて外輪山を 1 周し下山となりました。頂上は広く各ルートからの登山者で賑わっていました。下山ルートは展望コースを取りましたが、大雨の影響でガレ場は浮石が多く単独山行な事もあって、とにかく慎重に足場を選び予定タイムより 1 時間以上費やし、愛車にたどり着きました。さすが県名、岩手山の名の通り名山にふさわしい風

格があり又、多彩なルートに恵まれた山域なので縦走も面白いと思いました。(伊藤)



## 9月

2022-09-30

### 奥高尾縦走

清々しい初秋の好天をねらって低山の奥高尾縦走路の散策に出かけた。高尾山から陣馬山までの縦走は初めてである。8時19分に稲荷山コース登山口を出発。高尾山までは、朝霧旧友のつどいで利用しているコース。平日の朝とあって登山客はまばら。静かな山道を歩く。行動はTシャツ1枚でOK。高尾山頂上(599m)はさすがにハイカーで賑わっている。高尾山頂から小仏城山までは東海自然道の稜線を歩く。稜線は平坦で歩きやすい。しかし、稜線は高木で日光が入らずうす暗い。小仏城山で休憩。餅とビスケットでエネルギーを補給する。いくつかの休憩所は、平日ともあって営業していない。最後の陣馬山頂(857m)の清水茶屋で名物の陣馬うどんでお腹を満たす。下山は和田峠から陣馬街道の陣馬高原下バス停。なお、木々の紅葉はこれからが本番。(塚田)

## 10月

2022-10-01

### 利根川系 湯檜曾川 東黒沢

天気は快晴、初夏のような気温でやや汗ばむくらいの文句なしの天候。土合10時頃着。直ぐに歩き始める。東黒沢に入りほどなく装備つける。暫く遡行すると迫力のある滑滝ハナゲの滝が現れ左より高巻くと白毛門沢を左に分けて進む。美しい滑床、小さなゴルジュ、5m滝を途中ロープを使用し

ながら快適に進む。午後2時頃まではこのような調子で美しい谷の楽しい遡行であった。途中で水流一対一の沢の分かれ目に出合う。これを奥ノ二俣と勘違いして右の枝沢を選択したのが間違いであった。

※本来はこのまま何の困難もなく本流を遡行して白毛門岳から東に伸びる尾根(登山道無し)のコルに出て一時間ほどコルの向こう側に沢沿いに下った快適な幕営地で宿泊する予定であった。

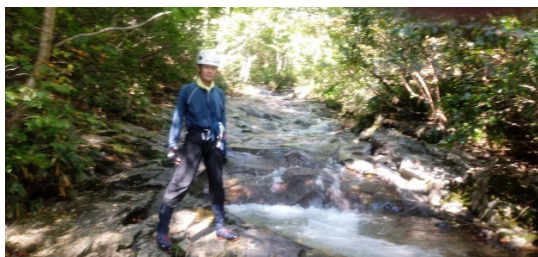
奥ノ二俣と勘違いしたのは実は一本手前の枝沢との分岐であった。水流はやがて枯れて傾斜は急となり硬い泥壁状となる。途中間違いに気づいて左にトラバース気味に進んで深く切れ込んだ涸沢を本流と判断して懸垂下降した。このまま更に急になる硬い泥壁状を途中空身になったりして苦勞して進み、4時前頃にやや視界の開けたところに出たが、目標のコルは西に500M以上離れているのを見て意気消沈。急な斜面と深いヤブをトラバースしてコルに出るのは無理である。安全地帯に抜けるにはひたすら直上するしかない。小岩峰、露岩部を右より巻き、厚い熊笹、石楠花帯をかき分けて日没前に狭い尾根に出た。疲労困憊である。幸いなことに分かりづらいが踏み跡がある。尾根上斜面に強引にテントを張り水は最小限で行動食を食べて眠りについた。満点の星空である。

翌朝明るくなる5時半出発、踏み後はわずかでも白毛門山、笠ヶ岳が遠望出来る。コンパスで1495m峰に一回下り尾根をはずさず進む峰の頂点に「丸山」表記あった。次は広い尾根を「西」に下降。広い尾根なので左右に振られながら藪を漕ぐ。途中方向を確認、前日目標のコルに降り立つ。コルは予想外の深い熊笹帯であり遡行者の踏み跡が無いので少々困惑する。ナルミズ沢遡行への継続は既に諦めていたが下山路として南に東黒沢を下降し土合へ下りるか、コルを北側へ走る枝沢を下りウツボキ沢、宝川出合を経て登山道経由で宝川温泉へと下りるかを協議。ガイドブックによると後者を選んだ場合さしたる困難もなく1時間程度で宝川出合の登山道まで出られるようであるので後者を選択する。鞍部の低いところ

から北へ向かい降りるとほどなく小沢に出合いぐんぐん降りていくと3~5m滝がいくつかあるものの小巻で何とかなる。50分程で宝川出合に着く。ここから延々と登山道、林道を下り4時間余りで宝川温泉に着いた。運良く水上行きのバスが間もなくあり帰路についた。(バス停までは更に20分歩く)

(反省)

今回は地図、コンパス、GPS、高度計と万全なる装備で臨んだが沢の詰めを間違えてしまった。ガイドブックの遡行図のみに頼り確認を怠ったのが原因である。水流の配分のみではなく、高度、沢の流入する方角等を見れば間違いは明白である。間違いに気づいた後沢を戻らずに安易にトラバースによりルートを修正しようとしたのも問題であった。何より出発時間が遅すぎた。今回の沢では前夜発が望ましい。沢の場合、幕営地や稜線には午後2時頃には着けるよう計画を立てるべきである。(木戸、他1名)



2022-10-02

上越国境 大源太山

大源太沢上流の駐車場に7時に着いて、7時15分に登り始める。林の中の急な坂道をひたすら上る。80分ほどで稜線に出ると天気が良く周りの景色が良く見える。風も心地よい。更に60分で頂上(1,596m)へ。稜線は花崗岩の岩稜帯でフリクションが聞き歩き易い。雲が殆ど無く周りの山が良く見える。来た道を2時間で下り12時に駐車場へ。日曜日で天気が良く駐車場はほぼ満杯。帰りには林道にも車が駐まっている。その割に途中で会った登山者は二組三人だけ。

(井上、他1名)

11月

2022-11-05

奥武蔵 伊豆ヶ岳

正丸駅8時30分集合、曇り空ながら前夜の雨も上がり、登山届を駅前のポストに投函し歩き出しました。登山客は、中高年のグループが主流のようです。馬頭さまから登山道に入る、林業は不採算事業のようで、間伐材が朽ちて放置され残念です。急登の斜面を終え主稜を進むといよいよ50年前の記憶にある頂上直下の鎖場です。男坂は一応閉鎖のロープは張られていますが、自己責任でトライする中高年の男性が、ちらほら待機している様です。植田さんはヌンチャク持参で輝いています。岩壁はところどころ順層で登りやすく、又日も出て乾燥してきたので鎖の世話にならずとも、行けそうでしたが、確保もできないので、慎重に鎖を手繰り久し振りの岩の感触を楽しみました。盛りの紅葉の中、嶺伝いの縦走となりましたが、これが思いの外、木の根っこに手こずり、天候が悪かったり、初心者には厳しいルートだと感じました。古御岳で昼食となりましたが、遅くても明るいうちに舗装道にと思い早々に切り上げ、所々林道を交え、子ノ権現天龍寺目指して木の根っこに挑戦しました。それにしても、植田さんの元気のいい事、息が切れないもんでしょうか。とても常人とは思えません。

明るいうちに車道にたどり着き、柿の実り具合を確かめ歩きましたが、時代の変遷か、空き家、廃屋が目立ち、街灯の近代的な白い明かりとミスマッチの観がします。どうにか明るいうちに吾野駅にたどり着き、梶君持参の氷入りビールで乾杯し、飯能行に乗り込みとなりました。ガイドブックに載ってたルートですが、思いの他気合の入った山行でした。この山域は古刹も多く、歴史好き、信仰心の旺盛な岳人には魅力なルートも多く、楽しめそうです。

(梶、伊藤 源、植田)



2022-11-12

### 奥多摩 タワ尾根

さて、今回はヤマレコの山友のお誘いでタワ尾根～ヨコスズ尾根のコースに行くことになりましたが、バスの時間が合わずあつしさんと二人でGo!!

何年ぶりかな??以前は確か平成22年2月2日に白久駅から熊倉山～西谷山に行き小雪が降ってきてしまい、避難小屋にビバークして翌日タワ尾根を下山。道路崩落のため奥多摩駅までとぼとぼ2時間歩いて帰りました。いつかはタワ尾根を登りたいと思いながら時間的体力的に考えても日帰りでは無理と思っていたのですが……。8時に東日原に到着し一石山神社でお参りしてスタート。急登を登っていくとベンチが……。ふかふかのモミジの絨毯を歩いて一石山、人形山、金袋山、篤坂ノ丸、ウトウの頭とすすんで西谷山に着いたのが12時33分。途中の岩ごつごつのところで教えていただいていたものの一端まっすぐ進んで降りることができないため、ここか!!と少し戻って左に降りた。その後例のモノレール沿いを進んで分岐からほぼトラバース。避難小屋でお水をいただいて下山開始。とりあえず坊主山に寄って天目山を目指した。途中で抜かれた矢岳から来た人が言うには長澤背稜は高速道路!!らしい。ヨコスズ尾根は、以前、谷川に行く予定が電車が遅れて急遽こちらに変更した思い出の尾根です。下山は東日原バス停、16時26分くらいに到着。あと5分早ければバス1時間

待たなくても済んだのに!!坊主山寄らなければ間に合ったか、ヨコスズ尾根の下山であつしさんのスピードについて行けずごめんなさい。寒空の中の1時間待ち、また思い出が増えました。(黒澤、他1名)

2022-11-27

### 秋田県 太平山

朝5時、大館市の古民家を愛車のTANKで出発、上小阿仁村あたりから明るくなる。カーナビに導かれ登山口の旭又には8時に到着しました。前日の残りを詰めた朝食を、ゆっくり味わい、同じく県外ナンバーの前期高齢者単独登山者のおっさんと二言三言、情報を交わし沢沿いの道を歩き出す。山はすっかり落葉しナナカマドの赤だけが目立っていました。天候は曇りで時折雪がちらつくコンディションでしたが、よく整備された登山道の所為か歩き易くあまりの静けさに、ついつい熊よけの笛の存在を忘れそうになりました。御瀧神社、御手洗と高度を上げましたが、聞こえるのは、ブナの落ち葉を踏むカサカサだけです。太平山(1,170m)頂上には12時前に着きましたが、登山者の姿は無く、雪が舞い、避難小屋も閉鎖となっていて、持参の行動食を、まだほのかに温かい白湯で流し込み下山となりました。どうも本日の登山者は、朝のおっさんと私だけのようです。太平山は信仰の山で登山道にはお地藏様も鎮座されていて、夏のシーズンにはさぞ大勢の氏子で盛況だったと伺えました。人気の無い事もあって、登った道をひたすら辿り、旭又の駐車場には15時には戻る事が出来明るうちに市街地までと、1車線の林道をライトを点け慎重に下り、里に着きカーナビをセットし、お気に入りの五輪真弓を聞きながら、両親の匂いのする古民家を目指しました。単独行の場合、登山届はもちろんですが、なるべくよく登られているコースと計画しましたが、首都圏とは違い、地方の場合登山人口も違いますので、慎重な計画、行動がポイントかなと思いました。晴れていれば秋田市街を一望できます。(伊藤 源)

## 12月

2022-12-03

### 奥多摩 蕎麦粒山（鳥屋戸尾根途中まで）

登山ガイドブックに関東周辺の上級コース“鳥屋戸（とやど）尾根”というのが目にとまった。鳥屋戸尾根は長沢背稜の蕎麦粒山（標高 1,473m）を山頂にしてほぼ真北に延びて川乗橋バス停あたりまで続く、そこそこ長い（6.2km）尾根である。と紹介されている。木戸氏と、奥多摩駅で待ち合わせして、駅から臨時のバスで川乗橋に向かう。鳥屋戸尾根の登山口（標高約 420m）は、バス停からわずか徒歩 1 分である。登山客で満杯のバスであったが鳥屋戸尾根を登山するのは私たちだけのようだ。（8:50 出発）ルートは、登山口側から笹ノ岩山（1,255m）、塩地ノ頭（1,290m）、鳥屋戸八丁山（1,300m）、松岩ノ頭（1,268m）、長尾山（1,339m）、蕎麦粒山と続くのであるが各山頂には標識がほとんどなく、知らないうちに通過してしまう。この登山道は、丹沢のような木製の登山道や階段もなく、歩きやすい。ただし、一部の急斜面の登山道は、この季節は落ち葉で滑りやすくなっている。このような道には標識（トラ柄）ロープが張られているので安全に通行することができる。登山道からの景観は、ブナや杉の樹々に覆われて周囲の山々を見渡すことはできない。山頂直下にある“巻き道出合”に達する前に我々のタイムアップ時刻の 13 時が迫ってきた。あと少しで蕎麦粒山に到着することができたのに残念であるが、ここから戻る（下山）することにした。枯葉でスリップしないように足元に注意しながらゆっくり降りる。暗くなる前に川乗橋バス亭に（15:40）到着した。次のバスまで時間があるので駅まで歩く。帰りの電車で木戸氏は、次回には新緑がきれいなころ、朝早くスタートすれば時間的に余裕のある山行が楽しめそうだ。また、蕎麦粒山から川苔山を縦走するのも面白そうだと新たな計画を練っていた。（木戸、塚田）

2022-12-10

### 鎌倉里山散策

集会见学に来られた方を、鎌倉里山へお試し散策にお誘いしてみました。待合せの鎌倉駅で、先ず靴擦れしているという軽山靴を拝見し、山靴の履き方や靴紐の締め方等をご教授しました。アプローチでは鎌倉八幡宮や頼朝墓所へ立ち寄り、長階段の昇降を利用して山歩きの姿勢や歩き方、またストックの使い方等をレクチャーしました。その後、永福寺から獅子ヶ谷（紅葉ヶ谷）へと向い、濡滑岩の沢床道を経て樹林帯に入りました。樹林帯はしばらく登ると傾斜が緩くなり、樹林が急に明るくなりました。樹相も一変して、一面の真っ赤な楓の紅葉の世界となりました。・・・そうです。ここがお目当ての紅葉ヶ谷です。お互い、夢中になって周りの紅葉を撮りまくりました。一段落した所で、各自持参の手作り昼飯となりました。長休憩を存分に堪能したところで、獅子ヶ谷由来の獅子岩を見て、天園から大平山へと向かいました。大平山ではお互いのスマホで、鎌倉アルプス最高峰の登頂記念写真を撮りました。そこからは鎌倉アルプスの主稜線を、西端の勝上ヶ嶽へと向かいました。この勝上ヶ嶽は建長寺奥院にあたり、伽藍の境内を山門まで下ることもできますが、協議の結果（鎌倉で金落しを渡る某氏の提案で）、目標という富士山を見て、山道を下山することにしました。下山した北鎌倉の明月院のイチョウ並木は、すっかり落葉していました。鎌倉街道の建長寺門前を通過し、出発の鎌倉八幡宮へと戻りました。さてと、ご感想は如何なものだったのでしょうか？（植田、他 1 名）



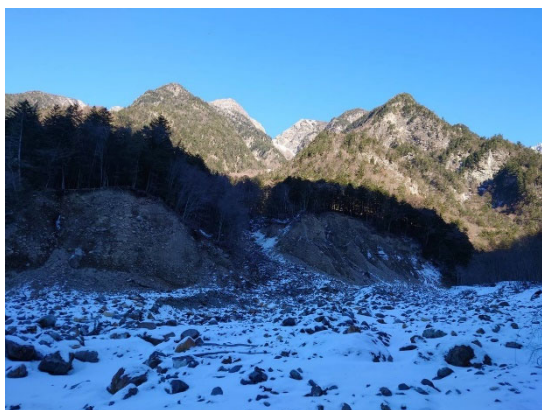
2022-12-28

### 南アルプス仙丈ヶ岳（敗退）

28日、若葉駅に16:00集合し車で出発、流溪荘の先、工事のため閉鎖されたゲート付近で幕営した。隣にテント一張、戸台河原付近でアイスクライミングを楽しむパーティでした。29日、快晴。一旦流溪荘の駐車場に車を止め出発。途中、戸台大橋から歌宿方面に向かう林道に迷い込んだが直ぐに戻り08:54戸台河原に着き、12:25角兵衛沢出合、14:11丹溪山荘跡を通過。この日は渡渉点を探しながらの長い河原のゴーロ歩きで疲労が溜まり、北沢峠まで届かず、15:55に比較的平らな1700m付近で幕営した。途中他のパーティには出会わなかった。30日、快晴。幕営地を07:04に出発し北沢峠へ向かう。途中深夜に戸台を出発した若いパーティに追い抜かれた。北沢峠着09:20。仙丈ヶ岳へ向かう尾根には膝までの雪が積もりトレースは無い。入山が早すぎたのか。体力を考慮して撤退することにした。（先程のパーティも撤退）15:40丹溪山荘から2時間ほど下った取水地堰堤にて幕営。途中都合10名程の入山するパーティとすれ違った。夕刻は焚き火で温まりながらのんびりと過ごした。31日、快晴。幕営地を06:20に出発し車で日帰り温泉（見晴らしの湯、露天風呂からの南アルプスの眺望が素晴らしい）に寄り15:40若葉駅着。解散した。

今回残念ながら登れなかったので5月連休、戸台大橋から歌宿へのバスを利用して再度トライしようと考えています。

（山口、吉田、木戸記）



## 2022（令和4）年 東京朝霧山岳会 会員

- ・会長（兼リーダー） 植田 宗男
- ・チーフリーダー 塚田 秀美  
（兼 都岳連窓口）
- ・リーダー 井上 弘
- ・会計/保険 黒澤 祐一
- ・ホームページ管理 木戸 伸一  
梶 大輔  
伊藤 源  
山口 秀男  
吉田 英樹

### 編集後記

- ・長きにわたり本「山行報告」を選任で編集してきた先輩のあとを引き継ぎ新任の担当者が2022年分を担当しましたがなかなか思うように作れません。今年の報告書は「チョットな？」と思われるかもしれませんが、ご容赦のほどを・・・

\*\*\*\*\*

## 山行報告 2022

2023年1月21日 初版第1刷発行  
発行所 / 東京朝霧山岳会  
〒132-0035 東京都江戸川区  
平井6-7-5 朝霧山荘内  
編集者 / 山行報告2022 編集委員会

\*\*\*\*\*

- ・本書の一部あるいは全部を無断で転載・複写することは、著作権者および発行所の権利の侵害となります。あらかじめ小会までご連絡ください。